

ユーザーマニュアル

ServerView Suite BX400 Remote Management

Issue / 発行日	10/24/2013
Category / カテゴリ	PRIMERGY
Content / 内容	オンラインヘルプ バージョン 6.62
Use / 使用レベル	external / 外部
Pages / ページ	132

目次

BX400 MMB S1 ヘルプシステムの目次	3
ダッシュボード	7
状態の概要	9
システムユニット	10
フロントサイドI/Oモジュール	12
マネジメントブレード	13
サーバブレード	17
ストレージブレード	24
GbE (Ethernet) コネクションブレード	26
イーサネットパススルーコネクションブレード	31
SASコネクションブレード	33
FCスイッチブレード	36
FCパススルーコネクションブレード	40
InfiniBandコネクションブレード	41
Brocade VDX 2730 コネクションブレード	45
Cisco Nexus B22 コネクションブレード	47
リアファンユニット	49
電源ユニット	50
無停電電源装置 (UPS)	52
搭載コンポーネント概要	53
システムイベントログ - システムイベントログ	54
システムイベントログ - 監査ログ	55
システムイベントログ - 設定	56
システム情報の保存	58
不具合発生時の情報の保存	59
LCDパネル - メッセージ	60
LCDパネル - PIN	61
フロントサイドI/O管理	62
電源管理	63
ローカルユーザー	68
新しいユーザー	69
グローバルユーザー	74
ユーザーセッション情報	79
ダッシュボードアクセス	80
OSのインストール	81
インストールベースの変更	87
バックアップ/リストア - BIOS	89
バックアップ/リストア - iRMC	91
アセットタグ管理	92
ファームウェアアップデート	93
サーバ証明書	96
ユーザー証明書	98
サービスLAN	99
管理LAN	101
AuDi-MIP	106
SNMP	109
リモート通知	111
日付と時刻	113
更新	115
言語	116
基本設定ウィザード	117
VIOM Manager	119
アイコン概要 (BX900/400)	120
訳語/用語集	122

BX400 MMB S1 ヘルプシステムの目次

Web UI ウィンドウの構造

詳細モードでは、Web UI ウィンドウには合計 5 つのフレームがあります：

1. バナーフレーム
2. 状態フレーム
3. ナビゲーションフレーム
このフレームは、フロントビュー、リアビュー、およびナビゲーションツリーで構成されています。ナビゲーションツリーでコンポーネントを選択している場合、「ヘルプ」→「このページ」（バナーフレームの右上）を選択すると、該当するヘルプテキストが表示されます。使用可能なヘルプテキストの概要は、「使用可能なヘルプテキスト」を参照してください。
4. メインフレーム
5. ボトムフレーム

各フレームの詳細は、ユーザーマニュアル『PRIMERGY BX400 ブレードサーバシステム ServerView マネジメントブレード S1 ユーザーインターフェース説明書』の「Web ユーザーインターフェース」の章に記載されています。
このマニュアルでは、電源管理のコンセプトについても説明しています。

ハードウェアのインストールと起動の詳細は、オペレーティングマニュアル『PRIMERGY BX400 S1 ブレードサーバシステムユニット』に記載されています。

使用可能なヘルプテキスト

注意:

- 選択したヘルプテキストからこの概要に、様々な方法で戻れます。特定のページを右クリックして「戻る」オプションを使用するか、または Backspace キーを押すだけでも戻れます。（Web UI のみ）
- **VIOM Manager** のヘルプテキストは、ここで参照できます。
- すべての **Web UI アイコン** の概要は、ここで確認できます。
- PRIMERGY BX システムのコンテキストで使用される **略語** の展開と説明の概要は、ここで参照できます。
- **OEM SM CLP** ターゲットと概念。

コンポーネント

- **ダッシュボード**
ダッシュボードに一般情報を表示します。
- **ブレードシステム**
ブレードシステムの状態の概要が表示されます。

- システムユニット
システムユニットの情報と設定の詳細が表示されます。
- フロントサイド I/O モジュール
モジュール情報を指定します。
- マネジメントブレード
使用可能なマネジメントブレードの詳細が表示されます。
- サーバブレード
使用可能なサーバブレードの詳細が表示されます。
- ストレージブレード
使用可能なストレージブレードの詳細が表示されます。
- コネクションブレード
使用可能なコネクションブレードの詳細が表示されます。
 - GbE (Ethernet) コネクションブレード
 - イーサネットパススルーコネクションブレード
 - SAS コネクションブレード
 - FC スイッチブレード
 - FC パススルーコネクションブレード
 - InfiniBand コネクションブレード
 - Brocade VDX 2730 コネクションブレード
 - Cisco Nexus B22 コネクションブレード
- リアファンユニット
使用可能なリアファンユニットの詳細を表示します。
- 電源ユニット
使用可能な電源ユニットの詳細が表示されます。
- 無停電電源装置
使用できる UPS の詳細を表示します。

情報／操作

- 情報
 - 搭載コンポーネント概要
使用可能なモジュールの基本的な FRU 情報が表示されます。
 - システムイベントログ
 - システムイベントログ
イベントログのエントリが表示されます。
 - 監査ログ
監査ログエントリを表示します。
 - 設定
システムイベントログと監査ログを設定する方法を示します。
 - システム情報の保存
システム情報の生成／表示／保存ができます。
 - 不具合発生時の情報の保存
システム情報 2 の生成／表示／エクスポートができます。

- 操作
 - LCD パネル
 - メッセージ
LCD パネルにメッセージを送信できます。
 - 暗証番号
LCD パネルを保護するための暗証番号を設定できます。
 - フロントサイド I/O 管理
フロントサイド I/O モジュールとサーバブレード間の割り当てを示します。
 - 電源管理
電源管理の情報と設定が表示されます。
 - ユーザー管理
 - ローカルユーザー
ローカルユーザーのリストが表示されます。
 - 新しいローカルユーザーアカウント
新しいローカルユーザーアカウントを追加できます。
 - グローバルユーザー
グローバルユーザーを統合できます。
 - ユーザーセッション情報
現在サインインしているユーザーのリストが表示されます。
 - ダッシュボード
ダッシュボードのグローバルな使用を有効または無効にします。
 - インストール管理
 - OS のインストール
OS を選択してインストールする方法を示します。
 - インストールベースの変更
新しい OS エディションを検出するインタフェースです。
 - バックアップ/復元管理
 - BIOS
搭載されているサーバブレードの BIOS 設定を管理します。
 - iRMC
搭載されているサーバブレードの iRMC 設定を管理します。
 - アセットタグ管理
アセットタグ管理の情報を示します。
 - ファームウェアアップデート
BIOS と iRMC に関連する MMB 設定をアップデートできます。
 - 証明書の操作
 - サーバ証明書
証明書情報と証明書署名要求を管理します。
 - ユーザー証明書
ユーザー証明書の生成と保存ができます。

設定

- システムユニット
 - ネットワークインタフェース
 - サービス LAN
サービス LAN ポートの設定を定義します。
 - 管理 LAN
管理 LAN ポートの IP アドレス、VLAN および IP フィルタリング設定を定義します。
 - AuDi-MIP
IP アドレスを自動的に配布できるようにします。
 - SNMP
コミュニティ、トラップ送信、SNMPv3 ユーザー、トラップ設定などの SNMP 設定を定義します。
 - リモート通知
イベント通知とメール送信の設定を定義します。
 - 日付と時刻
必要に応じてブレードシステムの日付／時刻の設定とネットワーク同期を定義します。
- 表示の更新
必要に応じてユーザーインタフェースの自動更新設定を定義します。
- 言語
Web インタフェースと LCD パネルの表示言語を設定します。
- 基本設定ウィザード
BX400 を最初に起動するための基本設定を行います（クイック設定）。

ダッシュボード

ダッシュボードページでは、

- 全体のステータスと
- 最も重要な日常的な運用が表示されます。

右上の「エクスペリエンス」ドロップダウンリストを使用して、ダッシュボードサイト（標準）を Web UI 設定サイト（詳細）とを切り替えられます。

ダッシュボードは4つの作業領域に分割されています。

↑ システムユニット

特に、システムユニットの状態と電源状態の情報を示します。

↑ フロントビュー/リアビュー

- **フロントビュー**
特に、状態についての情報を示し、フロントサイドのシステムユニットコンポーネントの概要図を表示します。
 - サーバブレード
 - ストレージブレード
 - フロントサイド I/O モジュール
- **リアビュー**
特に、状態についての情報を示し、リアサイドのシステムユニットコンポーネントの概要図を表示します。
 - MMB
 - コネクションブレード
 - リアファンユニット
 - PSU

↑ 電力

システムユニットの状態と電源状態についての情報を示します。

- 左側のバーは、右側の表で選択した消費電力モードに応じて、システムユニット全体の実際の入力電力を示します（警告しきい値と入力電力のパーセント）。「強制」または「制限」モードの場合はバーに色が付きますが、そうでない場合はバーは空白です。
- 中央のバーは、サーバブレードとスロット 1 と 8 にあるストレージブレード（電源が入っている場合）の実際の入力電力を示します。
- 右側に、消費電力モードに現在のモードが緑の四角形でマークされて表示されます。「設定」ボタンをクリックすると、ユーザーには詳細 Web UI の「電源管理」/「設定」ページが表示され、ここで消費電力モードを変更できます。ここでは、それぞれのモードが説明されています。

↑ イベントログ





MMB とサーバブレードからの最新の 10 件のイベントログエントリが入力されたテーブルを示します。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の 4 つがあります。ここでは、これらの 4 つの役割に以下の制約が適用されます：

- システムユニット領域
 - 「User」の役割では、システムユニットの電源状態を変更することはできません。システムユニットの電源状態を変更するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。
- フロントビュー領域
 - 「User」、「OEM」、「Operator」の役割では、選択したサーバブレードへのアクセスを制限できます。
 - 次のオプションは、「User」、「OEM」、「Operator」の役割に対して非表示にできます：サーバブレード電源投入/切断、コンソールリダイレクション、フロントサイド I/O モジュールの割り当て-USB/DVD、コンポーネントの位置特定。
- リアビュー領域
 - 「User」、「OEM」、および「Operator」の役割で、特定のコンポーネントにアクセスを制限できます。
 - 「User」の役割は、コンポーネントの位置特定のオプションは組み込まれていません。コンポーネントの位置特定オプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。
- 電源領域
 - 「User」、「OEM」、「Operator」の役割では、選択したサーバブレードへのアクセスを制限できます。
 - 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。
 - 「User」の役割では設定を指定できません。
- イベントログ領域
 - 「User」、「OEM」、および「Operator」の役割で、特定のコンポーネントにアクセスを制限できます。
 - 「User」の役割では、詳細 Web UI モードに分岐してすべてのイベントを表示することはできません。

状態の概要

「メインフレーム」の「状態の概要」では、すべての設定済みコンポーネントの最新の状態がアイコン（   ）によって示されます。各サブコンポーネントの状態に関する詳細情報を表示するには、該当する主要コンポーネントを展開します。

以下のコンポーネントのステータスが表示されます:

- マネジメントブレード
- サーバブレード
- ストレージブレード
- コネクションブレード
- ファン
- 温度
- 電源ユニット
- ハードウェアの不適合

ステータスアイコンの詳細については、「アイコン概要」を参照してください。

ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます:

- 「User」、「OEM」、および「Operator」の役割で、特定のコンポーネントにアクセスを制限できます。
- サーバブレードコンソールリダイレクションのオプションは、「User」、「OEM」、「Operator」の役割から取り出せます。
- ファンサイドへは、「User」の役割では分岐できません。

システムユニット

このページには次のブロックがあります。

†ブレードシステム情報

- システム名
システムユニットの名前。
④<システム名>の長さは 14 文字以下で、先頭は文字でなければならず、その後文字、数字、アンダースコア ("_") を続けることができます。
システム名は DNS 名の解決にも使用され、DHCP クライアント識別子としても使用されるため、固有である必要があります。
- 設置場所
システムユニットの設置場所です。
- 連絡先
連絡先を指定します。
- アセットタグ
定義されている場合は、システムユニットのアセットタグを表示します。
- ラックの名称
システムユニットのラック名。
④<ラック名>の長さは 13 文字以下で、先頭は文字でなければならず、その後文字、数字、アンダースコア ("_") を続けることができます。ラック名は省略することもできます。
- ラック固有の ID
ラック固有の ID を指定します。
- マネジメントブレードの不一致を検出
マネジメントブレードの FW タイプ/バージョンがシステムユニットのハウジングタイプに一致するかどうかを確認できます。一致しない場合は、現在の状況に応じて各種のアクションを開始できます。例えば、役割の自動変更や、スレーブのファームウェアをマスターのファームウェアバージョンでアップデート (クローニング) するなどです。「自動」に設定した場合、取り付けられているマネジメントブレードに対して、またはシステムユニットの電源が投入されたときに、不一致検出が自動的に実行されます。「手動」に設定した場合、自動不一致検出は実行されません。
- システム名またはラック名変更時における全コネクションブレード名の更新
この機能が有効になっている場合、すべてのコネクションブレードの名前が次の構文に従って更新されます。
④<ラック名>-<システム名>-CB<スロット番号>
この機能の影響を受けるのは"GbE コネクションブレード-x"と"10GbE コネクションブレード-x"のみで、その他の種類のコネクションブレードは影響を受けません。

†ファン管理

各ファンが失敗または利用できないとき、ユーザーが応答を設定できるようにします。

↑全ファン停止

すべてのファンが故障したときのブレードシステムの動作を設定します。

↑ファンテスト

- *毎日の動作テスト実施時刻*

システムファンのファンテスト時刻を設定します。形式は HH:MM、または「無効」（定期的なファンテストの停止）です。

- *起動時のファン動作テスト*

システム電源投入時のファン動作を設定します。チェックを付けると、しばらくの間すべてのファンが全速で回転します。

↑温度センサーの管理

システムユニットの温度センサーが異常な状態にある場合に取りうるアクションを、ユーザーが設定できるようにします。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
 - 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

フロントサイドI/Oモジュール

このページでは、フロントサイド I/O モジュールの製品情報を示します。

フロントサイド I/O モジュールをサーバブレードに割り当てられます。対応するリンク「USB/DVD 割り当て」をクリックすると、「フロント-サイド I/O 管理」ページが開きます。

ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 表示に関する役割の制限はありません。フロントサイド E/A マネジメントに分岐すると、定義された権利が適用されます。

マネジメントブレード

このページには次のタブがあります。

i スレーブ MMB の場合、最初のタブのみが表示されます。

↑ 情報

ブレード情報

- **動作モード**
マネジメントブレードはサーバブレードを管理するマスターとして動作するか、待機するスレーブの役割を果たします。
- **状態**
マネジメントブレードの現在の状態を表示します。
- **製造元**
マネジメントブレードの製造情報を表示します。
- **製造年月日**
マネジメントブレードの製造年月日を表示します。
- **シリアル番号**
マネジメントブレードのシリアル番号を表示します。
- **製品名**
マネジメントブレードの製品名を表示します。
- **ユニット図番**
マネジメントブレードのモデル名を表示します。
- **管理用 MAC アドレス**
マネジメントブレードの管理 LAN インタフェースの物理アドレス (MAC アドレス)。
- **管理用 IP アドレス**
MMB の管理 LAN インタフェースの IPv4 アドレス (マスターのみ)。

IPv4 と IPv6 が有効な場合

- **管理用 IPv4 アドレス**
MMB の管理 LAN インタフェースの IPv4 アドレス (マスターのみ)。
- **管理用 IPv6 アドレス**
MMB の管理 LAN インタフェースの IPv6 アドレス (マスターのみ)。
- **ファームウェア版数**
マネジメントブレードの管理ファームウェアの版数を表示します。
- **ハードウェア版数**
マネジメントブレードのハードウェアの版数を表示します。
- **アセットタグ**
定義されている場合、マネジメントブレードのアセットタグを表示します。

- **サービス用MAC アドレス**
マネジメントブレードのサービス LAN インタフェースの物理アドレス (MAC アドレス)。
- **サービス用IP アドレス**
MMB のサービス LAN インタフェースの IPv4 アドレス (マスターのみ)。

IPv4 と IPv6 が有効な場合

- **サービス用IPv4 アドレス**
MMB のサービス LAN インタフェースの IPv4 アドレス (マスターのみ)。
- **サービス用IPv6 アドレス**
MMB のサービス LAN インタフェースの IPv6 アドレス (マスターのみ)。

電圧情報

- **電圧の状態**
マネジメントブレードの電圧の状態を表示します。
- **電圧の最大値**
マネジメントブレードの電圧の最大値を表示します。
- **電圧の最小値**
マネジメントブレードの電圧の最小値を表示します。
- **電圧の公称値**
マネジメントブレードの電圧の公称値を表示します。
- **現在の電圧**
マネジメントブレードの現在の電圧を表示します。

↑ イベントログ

すべてのシステムイベントを表示します。また、フィルタ条件を選択して「適用」ボタンをクリックすると、コンポーネントおよび重要度別にフィルタできます。

イベントログフィルタリング

- **重要度**
表示するイベント (全て、情報、重度、軽度、危険) を選択できます。

「ログのクリア」ボタンをクリックすると、イベントログのイベントがすべてクリアされます。

イベントログの内容

- **発生日時**
年-月-日 HH:MM:SS

- **重要度**
情報、重度、軽度、または危険
- **説明**
メッセージ説明。

↑ 設定

- **ブレードアセットタグ**
マネジメントブレードの固有のアセットタグを入力します。
- **マネジメントブレードの再起動**
マネジメントブレードが1台のみシステムに搭載されている場合、「再起動」ボタンが有効になります。
- **マネジメントブレードの動作モード変更**
スレーブのマネジメントブレードが搭載されている場合、「動作モードの変更」ボタンが有効になります。
 - **NIC 状態によるマネジメントブレードの動作モード変更**
NIC 状態検知を有効/無効にします。
 - **リンクダウンタイムアウト時間**
NIC 状態検知のタイムアウト時間 (0~300 秒) を設定します。タイムアウト時間が経過すると、マネジメントブレードの動作モード (マスターとスレーブ) が変更されます。

↑ バックアップ / 復元

バックアップ設定

- **バックアップ形式**
バックアップフォーマットを選択します (バイナリまたは XML)。 (BX400 のみ)
- **バックアップメディア**
ラジオボタンをクリックして、バックアップ先のメディア (メモリ、USB、ローカルファイル) を選択します。
「ローカルファイル」オプションによって、バックアップファイルをローカル PC にダウンロードできます。数秒間の待機時間の後、ローカル PC の Web ブラウザにダイアログボックスが開き、その後の手順が指定されます。
iこの手順を選択した場合、バックアップファイルは MMB で制御されません。
- **バックアップファイル名**
バックアップするファイル名が表示されます。
- **バックアップの状況**
バックアップの状況を表示します。

復元設定

- **バックアップ形式**
バックアップフォーマットを選択します（バイナリまたは XML）。（BX400のみ）
- **バックアップメディア**
ラジオボタンをクリックして、リスト元のメディアを選択します。
- **バックアップファイル名**
メモリ/USBメモリからリストアするファイルを選択します。
- **ローカルにあるバックアップファイル名**
ローカルドライブからリストアするファイルを選択します。
- **復元の状況**
リストアの状況を表示します。リストア完了後、マネジメントブレードは自動的に再起動します。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

サーバブレード

このページには次のタブがあります。

↑ 情報

↑ ブレードのハードウェア情報

- **製造元**
サーバブレードの製造元を表示します。
- **製造モデル**
サーバブレードの製品モデル名を表示します。
- **製品名**
サーバブレードの製品名を表示します。
- **製品版数**
サーバブレードの製品版数を表示します。
- **ユニット図番**
製品部品番号を表示します。
- **シリアル番号**
ボードのシリアル番号を表示します。
- **シリアル番号**
製品のシリアル番号を表示します。
- **ファームウェア版数**
サーバブレードに搭載された iRMC のファームウェアの版数を表示します。
- **ハードウェア版数**
サーバブレードのハードウェアの版数を表示します。
- **製造年月日**
サーバブレードの製造年月日を表示します。
- **アクティブ GUID**
アクティブな GUID を表示します。
- **製造元 GUID**
製造元 GUID を表示します。
- **アセットタグ**
定義されている場合、サーバブレードのアセットタグを表示します。
- **メザニンカード**
メザニンカードが搭載されているかどうかを表示します。

↑ オペレーティングシステムの情報

- **OS の種類**
サーバブレードで現在実行されている OS プラットフォームを表示します。
- **OS の版数**
サーバブレードで現在実行されている OS の版数を表示します。
- **BIOS の版数**
サーバブレードの BIOS の版数を表示します。

↑CPU の情報

CPU の情報（種類、速度、CPU のステッピング、ソケットタイプ）を表示します。

↑メモリ情報

メモリモジュールの情報と設定を表示します。

↑ネットワークカードの情報

MAC アドレス／WWPN／ポート GUID、IP アドレス／WWNN、NIC の種類、BIOS 上で NIC が有効、Ekeying 有効などの情報、および該当コネクシオンブレードに関する情報を表示します。

↑ ネットワークインベントリ

タイプ 3 のサーバブレードの場合、別のネットワーク関連情報を示す表が表示されます。見出しで使用される用語の展開/説明は、ここで参照できます。

ヘッダーに関する追加メモ:

- *BIOS 有効*
BIOS セットアップユーティリティの設定に応じて、この値は「いいえ」または「はい」に設定されます。
- *Ekeying 有効*
ベイ 1 または 2 に取り付けられたコネクシオンブレードのタイプに応じて、この値は「いいえ」または「はい」に設定されます。

↑ イベントログ

イベントログはすべてのシステムイベントを表示します。また、フィルタ条件を選択して「適用」ボタンをクリックすると、コンポーネントおよび重要度別にフィルタできます。

イベントログフィルタリング

- *重要度*
表示するイベント（全て、情報、重度、軽度、危険）を選択できます。

「ログのクリア」ボタンをクリックすると、イベントリポジトリのイベントがすべてクリアされます。

イベントログの内容

- *発生日時*
年-月-日 HH:MM:SS
- *重要度*
情報、重度、軽度、または危険
- *説明*
メッセージ説明。

↑ 電源管理

サーバブレードの電源管理

- **電力管理モード**
選択されたサーバブレードのモードを表示します。次の3つのモードがあります。
 - **最小**
最も効率的な電力消費動作が iRMC によって設定されます。
 - **最適**
iRMC の電力消費動作がパフォーマンスに応じて最適に設定されます。
 - **無効**
iRMC に電力消費動作を設定するオプションがありません。たとえば、サーバブレードが「スタンバイ」状態（システム起動なし）にある場合や、電源管理サポート機能がない OS（DOS など）がロードされた場合などです。
- **電源状態**
サーバブレードの電源投入およびシャットダウン動作を実行できます。6つのオプションがあります。
 - **電源投入**
サーバブレードの電源を入れます。
 - **シャットダウンおよび電源切断**
OS をシャットダウンし、サーバブレードの電源を切ります。
 - **シャットダウンおよび電源切断・投入**
まず OS をシャットダウンし、次にサーバブレードの電源を切り、一定時間待った後、再度電源を入れます。
 - **ハードリセット**
サーバブレードをリセットします。
 - **NMI**
マスク不可能割り込みを生成します。
 - **強制電源切断**
サーバブレードの電源を切ります（電源ボタンを押すのと同じです）。

サーバブレードの電源オプション

- **電源のリストアポリシー**
電源障害後のサーバブレードの動作を設定します。

↑ 設定

↑ 自動再起動設定

- **ブートウォッチドッグを有効にする**
ブートウォッチドッグタイマーを有効/無効にします。

- **タイムアウト (1-100)**
重大なエラーの結果、サーバがシャットダウンおよび電源オフの後から再起動するまでに待機する分数（最大 100）。
- **リトライ中のアクション**
指定されたアクションは、ブートウォッチドッグタイムアウトが発生したときに実行されます。リトライカウンタが 0 になって場合は、iRMC によってサーバの電源がオフになります。
- **最大リトライカウンタ (0-7)**
重大なエラーの後にサーバに許可される、再起動の最大試行回数（最大 7）。
- **リトライカウンタ (0-最大)**
重大なエラーの後にサーバが試行する、再起動の最大試行回数（最大値は「最大リトライカウンタ (0-7)」で設定されます）。


↑起動方法の設定

PXE 起動用のサーバブレード LAN ポートを選択します。

- **起動方法の設定**
次にシステムが起動したときに使用されるストレージメディア。
- **BIOS リカバリの有効**
BIOS リカバリフラッシュビットの有効化/無効化：
 - **有効**
次にシステムを起動するとき、BIOS は自動的に更新されます。ファームウェアがアップデートされたときにオペレーティングシステムが起動しない場合、「有効」設定が役立ちます。次にシステムが DOS フロッピー（または DOS フロッピーイメージ）から起動されたときに、BIOS リカバリフラッシュが自動的に実行されます。BIOS リカバリフラッシュが正常に実行された後、BIOS リカバリフラッシュビットを「無効」にリセットします。
 - **無効**
次にシステムを起動するとき、BIOS は自動的に更新されません。

↑ホスト名

ユーザーはここにホスト名を入力できます。これは SNMP にも含まれています。

 ServerView エージェントがサーバブレードにインストールされている場合、MMB が OS ホスト名を引き継ぎます。

↑ブレードアセットタグ

サーバブレードに固有のアセットタグを入力します。

↑iRMC アドレス設定

該当する iRMC のアドレス設定を許可します。「サービスセッションのアクティブ化」ボタンを使用すると、現在の iRMC の LAN パラメータをバックアップできます。これらのパラメータは、「サービスセッションの非アクティブ化」を使用して復元できます。

- **ファームウェア版数**
ファームウェア版数を表示します。

- **管理 URL**
iRMC Web サイトへのリンク。
- **MAC アドレス**
MAC アドレスを表示します。
- **LAN ポート**
iRMC LAN セレクタの位置を選択します。
- **DNS 名**
iRMC の FQDN を表示します。

IP アドレス設定

- **有効にするプロトコル版数**
IPv4 アドレスのみ、または IPv4 および IPv6 アドレスを有効にします。
 - **IPv4**
 - **DHCP を有効にする**
DHCP を有効/無効にします。
 - **IP アドレス**
IPv4 アドレスを設定します。
 - **サブネットマスク**
サブネットマスクを設定します。
 - **ゲートウェイ**
ゲートウェイを設定します。
 - **VLAN を有効にする**
VLAN を有効または無効にします。
 - **VLAN ID (2-4094)**
許可された範囲に応じて数値を入力します。
 ●値「0」を設定すると、iRMC VLAN ID が削除されます。
 iRMC VLAN が有効なときにこれを実行すると、VLAN が無効になり、VLAN ID が削除されます。
 - **IPv6**
 - **リンクローカル IP アドレス**
リンクローカル IPv6 アドレスを表示します。
 - **グローバル静的 IP アドレス**
静的 IPv6 アドレスを定義できるようにします。アドレスの形式と省略のルール：
 IPv6 アドレスは、コロンで区切られた 16 ビットの 16 進数の 8 グループで表現されます (例 `2001:0db8:85a3:0000:0000:8a2e:0370:7334`)。IPv6 アドレスは、16 ビット数値の先頭のゼロを省略したり (例 `2001:db8:85a3:0:0:8a2e:370:7334`)、ゼロの連続を 2 つのコロンで置換することができます (例 `2001:db8:85a3::8a2e:370:7334`)。
 - **グローバルステートレス IP アドレス**
ルータから取得した 1 つ以上の IPv6 アドレスを表示します。

↑メザニンカード 2 の動作設定 (BX900 のみ)

このボックスでは、サーバブレードのスロット 2 (および BX960 の場合はス

ロット4も) のメザニンカード (Quad-Port Ethernet) をデフォルト値のベイ 7/8 からベイ 5/6 または 5/6/7/8 に切り換えられます。

このメザニンカードのマルチプレクサ (略して MUX) には4つのポートがあります。デフォルトでは、2つのポート (デュアル) がベイ 7 に、2つのポートがベイ 8 に接続されます。これらのポートをペアでベイ 5/6 に、または単独で 5/6/7/8 に切り換えられます。

↑電源管理設定

「強制電源切断」コントロールボックスが有効で、サーバブレードのシャットダウンが失敗した場合、指定可能な時間 (1~7分) が経過した後、強制電源切断によってサーバブレードがシャットダウンされます。

↑スケジュール運転の設定

サーバブレードの電源投入/切断スケジュールを設定できます。

↑ バックアップ / 復元

i この機能は、サーバブレードタイプが 960 S、S3、S4 の場合は提供されません。

CMOS バックアップ

サーバブレードの BIOS パラメータのバックアップ。バックアップ/リストアを実行するには、サーバブレードの電源を投入しておく必要があります。バックアップが成功すると、バックアップファイルが CMOS ファイル選択一覧に表示されます。

CMOS 復元

サーバブレードのパラメータをリストアするために CMOS ファイルとリストアポリシーを選択します。スマートリストアオプションを選択した場合、検証済みの MAC アドレス、スロット ID、および BIOS の版数とともにリストアされます。

i 復元後に危険メッセージ「POST – CPU has been changed」が表示される場合、サーバブレード BIOS に移行して「Save Changes and Exit」 (パラメータを変更しない) を選択してください。これによって、CPU の種類が現在の値に変更されます。(サーバブレード S1/S2 のみ。)

↑ ロールの配布に基づく権限

ユーザーに割り当てられるロールは、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つのロールに以下の制約が適用されます：

- 「User」、「OEM」、「Operator」の役割では、選択したサーバブレードへのアクセスを制限できます。
- コンソールリダイレクションのオプションは、「User」、「OEM」、「Operator」の役割から取り出せます。
- 設定を指定するオプションは、「User」、「OEM」、「Operator」の役割から取り出せます。

ストレージブレード

このページには次のタブがあります。

↑ 情報

ブレードのハードウェア情報

- **製造元**
ストレージブレードの製造元を表示します。
- **製品名**
ストレージブレードの製品名を表示します。
- **製造モデル**
ストレージブレードの製品モデル名を表示します。
- **部品番号**
ストレージブレードの部品番号を表示します。
- **シリアル番号**
ストレージブレードボードのシリアル番号を表示します。
- **シリアル番号**
ストレージブレード製品のシリアル番号を表示します。
- **製品版数**
ストレージブレードの製品の版数を表示します。
- **製造年月日**
ストレージブレードの製造年月日を表示します。
- **ファームウェア版数**
ストレージブレードのファームウェアバージョンを表示します。
i ストレージブレードに実際にファームウェアがある場合にのみ、表示されます。
- **ハードウェア版数**
ストレージブレードのハードウェアの版数を表示します。
- **アセットタグ**
定義されている場合、ストレージブレードのアセットタグを表示します。
- **CSS コンポーネント**
ストレージブレードがカスタマセルフサービスコンポーネントかどうかを表示します。
- **ディスク数**
ディスク数を表示します。
i 該当する場合のみ表示されます。
- **接続されているサーバブレード**
 - **左側**
左側のサーバブレードに接続されています。
 - **右側**
右側のサーバブレードに接続されています。

↑ 設定

ブレードアセットタグ

ストレージブレードの固有のアセットタグを入力します。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 設定を指定するオプションは、「User」、「OEM」、「Operator」の役割から取り出せます。

GbE (Ethernet) コネクションブレード

このページには次のタブがあります。

↑ 情報

ブレード情報

- **製造元**
コネクションブレードの製造元を表示します。
- **製造年月日**
FC スイッチブレードの製造年月日を表示します。
- **シリアル番号**
シリアル番号を表示します。
- **製品名**
製品名を表示します。
- **ユニット図番**
モデル名を表示します。
- **ハードウェア版数**
ボードの版数を表示します。
- **ファームウェア版数**
管理ファームウェアの版数を表示します。
- **ファームウェアモード**
● **ファームウェアモード**を表示します。ブレードタイプ「10GbE スイッチブレード-x」と「GbE スイッチブレード-x」には、「EHM」、「Switch」または「IBP」を値として指定できます。
- **スタッキングの状態**
製品名が「PY CB Eth Switch/IBP 1Gb 36/8+2」のコネクションブレードの場合のみ。スタッキングステータス（「Master」または「Member」）を表示します。
- **管理ポート MAC アドレス**
コネクションブレードの管理ポートの MAC アドレスを表示します。
- **アセットタグ**
定義されている場合は、コネクションブレードのアセットタグを表示します。
- **管理 URL**
コネクションブレードの Web ホームページをリンクする URL。スタッキングモードのブレードの場合、マスターの URL が表示されます（メンバーについても同様）。

↑ 電源管理

電源管理設定

ユーザーは、電源アクションを選択して「適用」ボタンをクリックした後にブレードをリセットできます。

↑ 設定

「表示の更新」ボタンを使用して、一部のパラメータの現在のステータスが照会されます。パラメータはコネクシオンブレード自体の管理機能を使っても変更できるため、この照会は必要です。このボタンを押しても変更が表示されなければ、現時点まではコネクシオンブレードによるパラメータの変更は行われていません。

↑コネクシオンブレード名

コネクシオンブレードのユーザー割り当て名を入力します。

④ユーザー割り当て名は31文字までで、文字で開始し、文字、数字、ハイフン ("-") を使用できます。ラック名を変更すると (Web UI のメニュー項目「システムユニット」を使用)、ここで指定した名前が上書きされる場合があります (タイプ「GbE コネクシオンブレード-x」と「10GbE コネクシオンブレード-x」のみに影響します)。

コネクシオンブレードは、割り当てられた名前を取得して、以下のシステム設定に使用します (上書きされていない場合)。

33. コネクシオンブレードの組み込みコマンドラインインタフェースのプロンプト名
34. ポートのネーミング
35. ホスト名
36. DHCP クライアント識別子

↑ブレードアセットタグ

コネクシオンブレードの固有のアセットタグを入力します。

↑管理ポートの設定

スイッチブレードのネットワーク設定情報を表示します。

- *DHCP* を有効にする
コネクシオンブレードの管理 IP 設定の IP モード (DHCP または NO-DHCP) を設定します。
- *IP アドレス/サブネットマスク/ゲートウェイアドレス*
スイッチブレードの管理 IP アドレス/サブネットマスク/ゲートウェイアドレスを表示します。
- *VLAN* を有効にする
VLAN を有効または無効にします。

- *VLAN ID (2-4094)*
VLAN IDを設定します。[i]VLAN IDを変更した後、DHCPを再度有効にする必要があります。
- IPv6
 - *リンクローカルIPアドレス*
ローカルネットワークのセグメントに対してのみ有効なMMBによって自動生成されたIPアドレスを表示します。
 - *グローバルIPアドレス*
AutoConfigプロセスで取得されたIPアドレス、またはDHCPv6サーバで割り当てられたIPアドレスを表示します。

[i]コンソールリダイレクションがアクティブになっている場合（「情報」→「管理URL」、またはCLIまたはSM CLPインタフェースを使用）、MMBはブロックされ、「適用」ボタンは使用できなくなります。

↑スタッキングポートの設定

内部スタッキングポートを有効/無効にします（製品名が「PY CB Eth Switch/IBP 1Gb 36/8+2」のコネクションブレードの場合のみ）。

↑ダウンリンクポートグループの速度設定（10GbE コネクションブレードのみ）

- *接続されているサーバベイ*
コネクションブレードに接続されているサーバベイ、および各ベイに設定された転送速度の概要（緑色: 10 Gps、オレンジ色: 1000 Mbps）を示します。
- *ポートグループとポートグループ速度*
ここで、サーバベイを構成するポートグループに個別の転送速度を、またはすべてのサーバベイに同じ転送速度を設定できます。すべてのポートグループのデフォルト速度は、10 Gbpsです。
[i]ポートグループは事前に定義されており、変更できません。

↑インタフェース設定をデフォルトにリセット

以下に示すインタフェース設定をデフォルト値にリセットします。

- *コネクションブレード名*
<ラック名>-<システム名><シャーシのシリアル番号の末尾 6 桁>-CB<ベイ番号>。
- *DHCP OOB*
有効。
- *内部スタッキングリンク*
無効。
- *ポート速度設定 (Fujitsu PY CB Eth Switch/IBP 10Gb 18/8 のみ)*
すべてのポートが 10 Gb/s に設定されます
- *管理ポートの選択 (Brocade PY CB FC スイッチ 8Gb 18/8 26 のみ)*
MMB が取り付けられているポートに応じて、「00」または「01」が表示されます。

- アカウント設定

MMBには事前設定されたユーザがあり、設定情報を取得および設定します。次のボックスを参照してください。

↑アカウント設定

🔵設定済みのユーザおよびパスワード設定がコネクシオンブレードのコマンドラインインタフェースまたは WebUI で変更された場合、これらのログイン設定をここでも指定する必要があります。そうしないと、MMB がコネクシオンブレードにアクセスできなくなります。

- 特権モードのパスワード
コネクシオンブレードの特権モードのパスワードを入力します。デフォルト: *en*
- ログインユーザー名
コネクシオンブレードの Web ホームページのログインユーザー名を入力します。デフォルト: *admin*
- ログインパスワード
コネクシオンブレードの Web ホームページのログインパスワードを入力します。デフォルト: *admin*

↑バックアップ / 復元

コネクシオンブレードの設定

- バックアップ/リストア設定
 - ネイティブアクセス方法
「適用」ボタンをクリックすると、ファイルマネージャはコネクシオンブレードの Web サイトにアクセスできるようになります。ここで、コネクシオンブレードの現在の設定を保存またはリストアできます。

コネクシオンブレードのアウトオブバンド設定

バックアップ設定

- バックアップメディア
MMB とコネクシオンブレード間のインタフェースデータのバックアップ先のメディア（メモリ、USB、ローカルファイル）を選択します。
「ローカルファイル」オプションによって、バックアップファイルをローカル PC にダウンロードできます。数秒間の待機時間の後、ローカル PC の Web ブラウザにダイアログボックスが開き、その後の手順が指定されます。
❗「ローカルファイル」がバックアップメディアとして使用される場合、バックアップファイルは MMB で制御されません。
❗「メモリ」をバックアップメディアとして使用すると、この方法で

保存された OOB 設定は、次に AC に障害が発生したとき、マネジメントブレードの再起動、役割変更まで使用できなくなります。

- バックアップファイル名
「新しい名前」ボタンをクリックすると、バックアップされたデータが含まれているファイルの名前を変更できます。識別タグと現在の日付からなる新しいファイル名が生成されます。
- バックアップの状況
「バックアップ」ボタンをクリックすると、状況が表示されます。バックアップが完了すると、「状況の更新」ボタンをクリックして、デフォルト状況「待機中」に戻れます。

復元設定

- バックアップメディア
MMB とコネクシオンブレード間のインタフェースデータの復元元のメディア（メモリ、USB、ローカルファイル）を選択します。
- バックアップファイル名
これまでにバックアップしたすべての版数から復元する版数を選択できます。
- ローカルにあるバックアップファイル名
ローカルファイルにバックアップした特定の版数の検索オプションを表示します。
- 復元の状況
「復元」ボタンをクリックすると、復元の状況が表示されます。復元が完了したら、「状況の更新」ボタンをクリックして、デフォルト状況「待機中」に戻れます。
- バックアップファイルの表示
MMB とコネクシオンブレード間の現在のインタフェースデータを表示します。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。
- リブートは、「Administrator」の役割でのみ可能です。

イーサネットパススルーコネクション ブレード

このページには次のタブがあります。

↑ 情報

ブレード情報

- **製造元**
コネクションブレードの製造元を表示します。
- **製造年月日**
FC スイッチブレードの製造年月日を表示します。
- **シリアル番号**
シリアル番号を表示します。
- **製品名**
製品名を表示します。
- **ユニット図番**
モデル名を表示します。
- **ハードウェア版数**
ボードの版数を表示します。
- **ファームウェア版数**
管理ファームウェアの版数を表示します。

↑ 電源管理

電源管理設定

ユーザーは、電源アクションを選択して「適用」ボタンをクリックした後にブレードをリセットできます。

↑ 設定

ブレードアセットタグ

コネクションブレードの固有のアセットタグを入力します。

ダウンリンクポートグループの速度設定

- **接続されているサーバベイ**
コネクションブレードに接続されているサーバベイ、および各ベイに設定された転送速度の概要（緑色: 10 Gps、オレンジ色: 1000 Mbps）を示します。
- **ポートグループとポートグループ速度**
ここで、サーバベイを構成するポートグループに個別の転送速度を、またはすべてのサーバベイに同じ転送速度を設定できます。すべての

ポートグループのデフォルト速度は、10 Gbps です。
[i]ポートグループは事前に定義されており、変更できません。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。
- リポートは、「Administrator」の役割でのみ可能です。

SASコネクションブレード

このページには次のタブがあります。

↑ 情報

ブレード情報

- **製造元**
コネクションブレードの製造元を表示します。
- **製造年月日**
FCスイッチブレードの製造年月日を表示します。
- **シリアル番号**
シリアル番号を表示します。
- **製品名**
製品名を表示します。
- **ユニット図番**
モデル名を表示します。
- **ハードウェア版数**
ボードの版数を表示します。
- **ファームウェア版数**
管理ファームウェアの版数を表示します。
- **ファームウェアモード**
ファームウェアモードを表示します。
- **管理ポートMACアドレス**
コネクションブレードの管理ポートのMACアドレスを表示します。
- **アセットタグ**
定義されている場合は、コネクションブレードのアセットタグを表示します。
- **管理URL**
コネクションブレードのWebホームページにリンクするURLです。

↑ 電源管理

電源管理設定

ユーザーは、電源アクションを選択して「適用」ボタンをクリックした後にブレードをリセットできます。

↑ 設定

「表示の更新」ボタンを使用して、一部のパラメータの現在のステータスが照会されます。パラメータはコネクションブレード自体の管理機能を使って変更できるため、この照会は必要です。このボタンを押しても変更が表示

されなければ、現時点まではコネクショングレードによるパラメータの変更は行われていません。

コネクショングレード名

コネクショングレードのユーザー割り当て名を入力します。

④ユーザー割り当て名は31文字までで、文字で開始し、文字、数字、ハイフン ("-") を使用できます。ラック名を変更すると (Web UI のメニュー項目「システムユニット」を使用)、ここで指定した名前が上書きされる場合があります (タイプ「GbE コネクショングレード-x」と「10GbE コネクショングレード-x」のみに影響します)。

コネクショングレードは、割り当てられた名前を取得して以下のシステム設定に対して使用します (上書きされなかった場合)。

88. コネクショングレードの組み込みコマンドラインインタフェースのプロンプト名
89. ポートのネーミング
90. ホスト名
91. DHCP クライアント識別子

ブレードアセットタグ

コネクショングレードの固有のアセットタグを入力します。

管理ポートの設定

スイッチブレードのネットワーク設定情報を表示します。

- *DHCP* を有効にする
コネクショングレードの管理 IP 設定の IP モード (DHCP または NO-DHCP) を設定します。
- *IP アドレス/サブネットマスク/ゲートウェイアドレス*
スイッチブレードの管理 IP アドレス/サブネットマスク/ゲートウェイアドレスを表示します。
- *VLAN* を有効にする
VLAN を有効または無効にします。
- *VLAN ID (2-4094)*
VLAN ID を設定します。 ⓘVLAN ID を変更した後、DHCP を再度有効にする必要があります。

ⓘコンソールリダイレクションがアクティブになっている場合 (「情報」 → 「管理 URL」、または CLI または SM CLP インタフェースを使用)、MMB はブロックされ、「適用」ボタンは使用できなくなります。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。
- リブートは、「Administrator」の役割でのみ可能です。

FCスイッチブレード

このページには次のタブがあります。

↑ 情報

ブレード情報

- **製造元**
コネクションブレードの製造元を表示します。
- **製造年月日**
FCスイッチブレードの製造年月日を表示します。
- **シリアル番号**
シリアル番号を表示します。
- **製品名**
製品名を表示します。
- **ユニット図番**
FCスイッチブレードの製品番号を表示します。
- **ハードウェア版数**
ボードの版数を表示します。
- **ファームウェア版数**
管理ファームウェアの版数を表示します。
- **管理ポートMACアドレス**
MACアドレスを表示します。
- **WWNアドレス**
FCスイッチブレードのWWNアドレスを表示します。
- **ファームウェアモード**
ファームウェアモードを表示します。「8Gb FCスイッチブレード-x」には「Access Gateway」、「Native」、または「Interop」を値として指定できます。
- **アセットタグ**
定義されている場合は、コネクションブレードのアセットタグを表示します。
- **管理URL** スイッチブレードの Web ホームページにリンクする URL です。

↑ 電源管理

電源管理設定

ユーザーは、電源アクションを選択して「適用」ボタンをクリックした後にブレードをリセットできます。

↑ 設定

「表示の更新」ボタンを使用して、一部のパラメータの現在のステータスが照会されます。パラメータはコネクシオンブレード自体の管理機能を使っても変更できるため、この照会は必要です。このボタンを押しても変更が表示されなければ、現時点まではコネクシオンブレードによるパラメータの変更は行われていません。

↑コネクシオンブレード名

コネクシオンブレードのユーザー割り当て名を入力します。

④ユーザー割り当て名の長さは 31 文字以下でなければならず、文字で開始し、文字、数字、ハイフン ("-") を続けることができます。ラック名を変更すると (Web UI のメニュー項目「システムユニット」を使用)、ここで指定した名前が上書きされる場合があります。

コネクシオンブレードは、割り当てられた名前を取得して、以下のシステム設定に使用します (上書きされていない場合)。

111. コネクシオンブレードの組み込みコマンドラインインタフェースのプロンプト名
112. ポートのネーミング
113. ホスト名
114. DHCP クライアント識別子

↑ブレードアセットタグ

コネクシオンブレードの固有のアセットタグを入力します。

↑管理ポート選択

管理ポート (スイッチブレードを管理するためのネットワークインタフェース) のポジション ("外部/フロント"と"内部/MMB1または MMB2") を切り替えることができます。

↑管理ポートの設定

スイッチブレードのネットワーク設定情報を表示します。

- *DHCP を有効にする*
コネクシオンブレードの管理 IP 設定の IP モード (DHCP または NO-DHCP) を設定します。
- *IP アドレス/サブネットマスク/ゲートウェイアドレス*
スイッチブレードの管理 IP アドレス/サブネットマスク/ゲートウェイアドレスを表示します。
- *現在値*
IP アドレス/サブネットマスク/ゲートウェイアドレス (「現在の値」) は現在のスイッチブレードの管理 IP アドレス/サブネットマスク/ゲートウェイアドレスです。

↑インタフェース設定をデフォルトにリセット

以下に示すインタフェース設定をデフォルト値にリセットします。

- コネクションブレード名
<ラック名>-<システム名><シャーシのシリアル番号の末尾 6 桁>-CB<ベイ番号>。
- *DHCP OOB*
有効。
- 内部スタッキングリンク
無効。
- ポート速度設定 (*Fujitsu PY CB Eth Switch/IBP 10Gb 18/8* のみ)
すべてのポートが 10 Gb/s に設定されます
- 管理ポートの選択 (*Brocade PY CB FC スイッチ 8Gb 18/8 26* のみ)
MMB が取り付けられているポートに応じて、「00」または「01」が表示されます。
- アカウント設定
MMB には事前設定されたユーザがあり、設定情報を取得および設定します。次のボックスを参照してください。

↑アカウント設定

① 設定済みのユーザおよびパスワード設定がコネクションブレードのコマンドラインインタフェースまたは WebUI で変更された場合、これらのログイン設定をここでも指定する必要があります。そうしないと、MMB がコネクションブレードにアクセスできなくなります。

- 特権モードのパスワード
コネクションブレードの特権モードのパスワードを入力します。デフォルト: *en*
- ログインユーザー名
コネクションブレードの Web ホームページのログインユーザー名を入力します。デフォルト: *admin*
- ログインパスワード
コネクションブレードの Web ホームページのログインパスワードを入力します。デフォルト: *admin*

↑バックアップ/復元

バックアップ設定

- バックアップメディア
MMB とコネクションブレード間のインタフェースデータのバックアップ先のメディア（メモリ、USB、ローカルファイル）を選択します。「ローカルファイル」オプションによって、バックアップファイルをローカル PC にダウンロードできます。数秒間の待機時間の後、ローカル PC の Web ブラウザにダイアログボックスが開き、その後の手順が指定されます。
i この手順を選択した場合、バックアップファイルは MMB で制御されません。

● 「メモリ」をバックアップメディアとして使用すると、この方法で保存された OOB 設定は、次に AC に障害が発生したとき、マネジメントブレードの再起動、役割変更まで使用できなくなります。

- バックアップファイル名
「新しい名前」ボタンをクリックすると、バックアップされたデータが含まれているファイルの名前を変更できます。識別タグと現在の日付からなる新しいファイル名が生成されます。
- バックアップの状況
「バックアップ」ボタンをクリックすると、状況が表示されます。バックアップが完了すると、「状況の更新」ボタンをクリックして、デフォルト状況「待機中」に戻れます。

復元設定

- バックアップメディア
MMB とコネクシオンブレード間のインタフェースデータの復元元のメディア（メモリ、USB、ローカルファイル）を選択します。
- バックアップファイル名
これまでにバックアップしたすべての版数から復元する版数を選択できます。
- ローカルにあるバックアップファイル名
ローカルファイルにバックアップした特定の版数の検索オプションを表示します。
- 復元の状況
「復元」ボタンをクリックすると、復元の状況が表示されます。復元が完了したら、「状況の更新」ボタンをクリックして、デフォルト状況「待機中」に戻れます。
- バックアップファイルの表示
MMB とコネクシオンブレード間の現在のインタフェースデータを表示します。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。
- リブートは、「Administrator」の役割でのみ可能です。

FCパススルーコネクションブレード

このページには次のタブがあります。

↑ 情報

ブレード情報

- **製造元**
コネクションブレードの製造元を表示します。
- **製造年月日**
FCスイッチブレードの製造年月日を表示します。
- **シリアル番号**
シリアル番号を表示します。
- **製品名**
製品名を表示します。
- **ユニット図番**
モデル名を表示します。
- **ハードウェア版数**
ボードの版数を表示します。
- **ファームウェア版数**
管理ファームウェアの版数を表示します。

↑ 電源管理

電源管理設定

ユーザーは、電源アクションを選択して「適用」ボタンをクリックした後にブレードをリセットできます。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。
- リポートは、「Administrator」の役割でのみ可能です。

InfiniBandコネクションブレード

このページには次のタブがあります。

↑ 情報

ブレード情報

- **製造元**
コネクションブレードの製造元を表示します。
- **製造年月日**
FCスイッチブレードの製造年月日を表示します。
- **シリアル番号**
シリアル番号を表示します。
- **製品名**
製品名を表示します。
- **ユニット図番**
モデル名を表示します。
- **ハードウェア版数**
ボードの版数を表示します。
- **ファームウェア版数**
管理ファームウェアの版数を表示します。
- **ファームウェアモード**
ファームウェアモードを表示します。
- **管理ポートMACアドレス**
コネクションブレードの管理ポートのMACアドレスを表示します。
- **アセットタグ**
定義されている場合は、コネクションブレードのアセットタグを表示します。
- **管理URL**
コネクションブレードのWebホームページにリンクするURLです（該当する場合）。

↑ 電源管理

電源管理設定 ユーザーは、電源アクションを選択して「適用」ボタンをクリックした後にブレードをリセットできます。

↑ 設定

「表示の更新」ボタンを使用して、一部のパラメータの現在のステータスが照会されます。パラメータはコネクションブレード自体の管理機能を使っても変更できるため、この照会は必要です。このボタンを押しても変更が表示

されなければ、現時点まではコネクショングレードによるパラメータの変更は行われていません。

↑コネクショングレード名

コネクショングレードのユーザー割り当て名を入力します。

④ユーザー割り当て名の長さは 31 文字以下でなければならず、文字で開始し、文字、数字、ハイフン ("-") を続けることができます。ラック名を変更すると (Web UI のメニュー項目「システムユニット」を使用)、ここで指定した名前が上書きされる場合があります。

コネクショングレードは、割り当てられた名前を取得して、以下のシステム設定に使用します (上書きされていない場合)。

159. コネクショングレードの組み込みコマンドラインインタフェースのプロンプト名
160. ポートのネーミング
161. ホスト名
162. DHCP クライアント識別子

↑ブレードアセットタグ

コネクショングレードの固有のアセットタグを入力します。

↑管理ポートの設定

スイッチブレードのネットワーク設定情報を表示します。

- *DHCP* を有効にする
コネクショングレードの管理 IP 設定の IP モード (DHCP または NO-DHCP) を設定します。
- *IP アドレス/サブネットマスク/ゲートウェイアドレス*
スイッチブレードの管理 IP アドレス/サブネットマスク/ゲートウェイアドレスを表示します。
- *VLAN* を有効にする
VLAN を有効または無効にします。
- *VLAN ID (2-4094)*
VLAN ID を設定します。 ⓘVLAN ID を変更した後、DHCP を再度有効にする必要があります。

ⓘコンソールリダイレクションがアクティブになっている場合 (「情報」→「管理 URL」、または CLI または SM CLP インタフェースを使用)、MMB はブロックされ、「適用」ボタンは使用できなくなります。

↑インタフェース設定をデフォルトにリセット

以下に示すインタフェース設定をデフォルト値にリセットします。

- *コネクショングレード名*
<ラック名>-<システム名><シャーシのシリアル番号の末尾 6 桁>-CB<ベイ番号>。
- *DHCP OOB*
有効。

- 内部スタッキングリンク
無効。
- ポート速度設定
すべてのポートが 10 Gb/s に設定されます
- アカウント設定
MMB には事前設定されたユーザがあり、設定情報を取得および設定します。次のボックスを参照してください。

↑アカウント設定

●設定済みのユーザおよびパスワード設定がコネクシオンブレードのコマンドラインインタフェースまたは WebUI で変更された場合、これらのログイン設定をここでも指定する必要があります。そうしないと、MMB がコネクシオンブレードにアクセスできなくなります。

- 特権モードのパスワード
コネクシオンブレードの特権モードのパスワードを入力します。デフォルト: *en*
- ログインユーザー名
コネクシオンブレードの Web ホームページのログインユーザー名を入力します。デフォルト: *admin*
- ログインパスワード
コネクシオンブレードの Web ホームページのログインパスワードを入力します。デフォルト: *admin*

↑バックアップ/復元

コネクシオンブレードのアウトオブバンド設定

- バックアップ設定
 - バックアップメディア
MMB とコネクシオンブレード間のインタフェースデータのバックアップ先のメディア（メモリ、USB、ローカルファイル）を選択します。
「ローカルファイル」オプションによって、バックアップファイルをローカル PC にダウンロードできます。数秒間の待機時間の後、ローカル PC の Web ブラウザにダイアログボックスが開き、その後の手順が指定されます。
[i]この手順を選択した場合、バックアップファイルは MMB で制御されません。
●「メモリ」をバックアップメディアとして使用すると、この方法で保存された OOB 設定は、次に AC に障害が発生したとき、マネジメントブレードの再起動、役割変更まで使用できなくなります。
 - バックアップファイル名
「新しい名前」ボタンをクリックすると、バックアップされた

データが含まれているファイルの名前を変更できます。識別タグと現在の日付からなる新しいファイル名が生成されます。

- **バックアップの状況**
「バックアップ」ボタンをクリックすると、状況が表示されます。バックアップが完了すると、「状況の更新」ボタンをクリックして、デフォルト状況「待機中」に戻れます。

復元設定

- **バックアップメディア**
MMB とコネクシオンブレード間のインタフェースデータの復元元のメディア（メモリ、USB、ローカルファイル）を選択します。
- **バックアップファイル名**
これまでにバックアップしたすべての版数から復元する版数を選択できます。
- **ローカルにあるバックアップファイル名**
ローカルファイルにバックアップした特定の版数の検索オプションを表示します。
- **復元の状況**
「復元」ボタンをクリックすると、復元の状況が表示されます。復元が完了したら、「状況の更新」ボタンをクリックして、デフォルト状況「待機中」に戻れます。
- **バックアップファイルの表示**
MMB とコネクシオンブレード間の現在のインタフェースデータを表示します。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。
- リブートは、「Administrator」の役割でのみ可能です。

Brocade VDX 2730 コネクションブレード

このページには次のタブがあります。

↑ 情報

ブレード情報

- **製造元**
コネクションブレードの製造元を表示します。
- **製造年月日**
FC スイッチブレードの製造年月日を表示します。
- **シリアル番号**
シリアル番号を表示します。
- **製品名**
製品名を表示します。
- **ユニット図番**
製品番号（モデル名）を表示します。
- **ハードウェア版数**
ボードの版数を表示します。
- **アセットタグ**
定義されている場合は、コネクションブレードのアセットタグを表示します。

↑ 電源管理

電源管理設定


ユーザーは、電源アクションを選択して「適用」ボタンをクリックした後にブレードをリセットできます。

↑ 設定

「表示の更新」ボタンを使用して、一部のパラメータの現在のステータスが照会されます。パラメータはコネクションブレード自体の管理機能を使っても変更できるため、この照会は必要です。このボタンを押しても変更が表示されなければ、現時点まではコネクションブレードによるパラメータの変更は行われていません。

コネクションブレード名

コネクションブレードのユーザー割り当て名を入力します。

 ユーザー割り当て名は31文字までで、文字で開始し、文字、数字、ハイフン（"-")を使用できます。

コネクシオンブレードは、割り当てられた名前を取得して、以下のシステム設定に使用します（上書きされていない場合）。

191. コネクシオンブレードの組み込みコマンドラインインタフェースのプロンプト名
192. ポートのネーミング
193. ホスト名
194. DHCP クライアント識別子

ブレードアセットタグ

コネクシオンブレードの固有のアセットタグを入力します。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。
- リブートは、「Administrator」の役割でのみ可能です。

Cisco Nexus B22 コネクションブレード

このページには次のタブがあります。

↑ 情報

ブレード情報

- **製造元**
コネクションブレードの製造元を表示します。
- **製造年月日**
FC スイッチブレードの製造年月日を表示します。
- **シリアル番号**
シリアル番号を表示します。
- **製品名**
製品名を表示します。
- **ユニット図番**
モデル名を表示します。
- **ハードウェア版数**
ボードの版数を表示します。
- **アセットタグ**
定義されている場合は、コネクションブレードのアセットタグを表示します。

↑ 電源管理

電源管理設定

ユーザーは、電源アクションを選択して「適用」ボタンをクリックした後にブレードをリセットできます。

↑ 設定

「表示の更新」ボタンを使用して、一部のパラメータの現在のステータスが照会されます。パラメータはコネクションブレード自体の管理機能を使っても変更できるため、この照会は必要です。このボタンを押しても変更が表示されなければ、現時点まではコネクションブレードによるパラメータの変更は行われていません。

ブレードアセットタグ

コネクションブレードの固有のアセットタグを入力します。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。
- リブートは、「Administrator」の役割でのみ可能です。

リアファンユニット

このページでは次の情報を示します。
電源ユニット内部やファンの情報

- 製造元
製造元情報を表示します。
- 製品名
製品名を表示します。
- ユニット図番
モデル名を表示します。
- 製品版数
製品版数を表示します。
- シリアル番号
シリアル番号を表示します。
- ファームウェア版数
ファームウェア版数を表示します。
- ハードウェア版数
ハードウェア版数を表示します。
- 製造年月日
FC スイッチブレードの製造年月日を表示します。
- CSS コンポーネント
リアファンユニットが CSS コンポーネントであるかどうかを示します。
- ファンの詳細
リアファンユニットの情報へのリンクです。

ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。

電源ユニット

このページには次のタブがあります。

↑ 監視

電源ユニット関連の情報

- *状態*
システムの電源ユニットの状態に関する概要を表示します。
- *電源ユニットの冗長構成*
システムの電源ユニットの冗長状態を表示します。

電源ユニット内部やファンの情報

- *ファン1～ファン8の状態*
選択された電源ユニットのファン1～ファン8の状態を表示します。
- *過電圧防止機能*
過電圧防止機能の状態を表示します。
- *低電圧防止機能*
低電圧防止機能の状態を表示します。
- *過電流防止機能*
過電流防止機能の状態を表示します。
- *現在の共有ステータス*
電源ユニット間での電流の共有状況を表示します。
- *電源ユニットの出力準備状況*
電源ユニットが出力できる状態にあるかどうかを表示します。
- *電源切断命令状況*
電源切断命令状況を表示します。
- *電源の入力定格*
電源ユニットの入力定格を表示します。
- *電源の入力定格*
DC PSU が使用されている場合のみ表示されます。
- *温度*
電源ユニットの現在の温度を表示します。

↑ 情報

電源ユニット

- *製造元*
製造元を表示します。
- *製品名*
製品名を表示します。

- ユニット図番
モデル名を表示します。
- 製品版数
製品版数を表示します。
- シリアル番号
シリアル番号を表示します。
- ファームウェア版数
ファームウェア版数を表示します。
- ハードウェア版数
ハードウェア版数を表示します。
- 製造年月日
FC スイッチブレードの製造年月日を表示します。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 表示には役割の制限はありません。
- 内蔵ファンのディスプレイへは、「User」の役割では分岐できません。

無停電電源装置（UPS）

このページでは次の情報を示します。

- *無停電電源装置の数*
取り付けられた UPS の数を指定します。
- *製造元*
UPS のベンダー情報を入力します。
- *種類*
UPS のタイプを入力します。
- *エージェント IP アドレス*
UPS リモート管理のエージェント IP アドレスを設定します。
- *Port*
UPS のポート番号を設定します。
- *SNMP コミュニティ*
UPS の SNMP コミュニティを入力します。

ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。
- 「User」の役割では設定を指定できません。

搭載コンポーネント概要

このページには、一覧にある各モジュールの基本的な FRU 情報が表示されます。

この一覧のモデル名をクリックすると、選択したモジュールの Web ページが表示されます。

ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 「OEM」および「Operator」の役割で、特定のコンポーネントにアクセスを制限できます。

システムイベントログ – システムイベントログ

このページでは次の情報を示します。

- システムイベントログのエクスポート
選択したメディアにイベントログをテキストファイルとして保存します。
- イベントログ表示フィルタ
すべてのシステムイベントを表示します。また、フィルタ条件を選択して「適用」ボタンをクリックすると、コンポーネントおよび重要度別にフィルタできます。

「ログのクリア」ボタンをクリックすると、イベントリポジトリのイベントがすべてクリアされます。

- イベントログの内容
イベントは下記のフォーマットで表示されます。
 - イベント日付: 年-月-日 HH:MM:SS
 - イベントの重要度: 情報、重度、軽度、または危険
 - イベントの説明: イベントのメッセージ。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

システムイベントログ – 監査ログ

このページでは次の情報を示します。

- **監査ログのエクスポート**
監査ログのエクスポートと、「システムイベントログ」→「設定」→「監査ログ」で設定されている場合はシステムイベントログのエクスポートも許可します。
- **監査ログ表示フィルタ**
監査ログ表示フィルタの定義を許可します。
- **監査ログコンテンツ**
フィルタの選択内容に応じて監査ログメッセージを表示します。

ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

システムイベントログ – 設定

このページには次のタブがあります。

↑ 全般

- ログがいっぱいになった場合の動作:
 - ラップする
最も古いエントリは上書きできます（デフォルト）。
 - これ以上のエントリはありません
これ以上エントリは追加されません。
- 監査ログを有効にする
監査イベントを個別に保存して表示するか、ログオン/ログオフイベントをシステムイベントログと一緒に保存して表示するかを定義します。監査ログが有効でなければ、「監査ログ」タブも無効になります。

↑ システムイベントログ

デフォルトの表示フィルタ

デフォルトのディスプレイフィルタを Web UI に定義できるようにします。デフォルトディスプレイフィルタのデフォルトは、危険レベルのイベントと重度レベルのイベントを表示し、軽度レベルのイベントおよび情報レベルのイベント、解決方法/原因を表示しません。CSS と非 CSS イベントの両方が表示されます。

↑ 監査ログ

デフォルトの表示フィルタ

デフォルトのディスプレイフィルタを Web UI に定義できるようにします。監査ログについてのみ、軽度レベルおよび情報レベルの重要度が使用されます。デフォルトは両方です。

通知の構成

監査ログがいっぱいになったときにシステムイベントログに警告を作成する、しきい値を定義できます（エントリ数別または使用率別）。

構成のエクスポート

監査ログがいっぱいになったときにシステムイベントログに警告を作成する、しきい値を定義できます。

- 電子メールによるプロトコルエクスポート
監査ログのメールによるエクスポートの設定。以下の仕様が表示されます:
 - 送信者
 - 宛先（受信者 1～5）

- 件名
- 周波数のエクスポート
- 時刻 (hh:mm) のエクスポート
- 平日のエクスポート (「周波数のエクスポート」で「毎週」を選択したときにアクティブ化されます)。
- しきい値達成時にエクスポート (エントリ数別、使用率別、またはオンデマンド)。
- **i** 「オンデマンド」とは、「システムイベントログ」→「監査ログ」→「監査ログのエクスポート」(しきい値は無視)の「開始」ボタンを使用して、手動でエクスポートを開始する必要があることを意味します。
- 次の場合にエクスポート
 1. 指定されたエントリ数に達したか
 2. または指定された領域使用率に達しました
- システムログによるプロトコルのエクスポート
システムログによる監査ログエクスポートの設定。以下の仕様が表示されます。
 - システムログサーバアドレス
 - システムログのリモートポート
 - 重要度のエクスポート(「軽度」および「情報」)

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

システム情報の保存

このページでは次の情報を示します。

ブレードシステム情報の保存設定

システム情報の保存場所を設定します。「情報の閲覧」ボタンをクリックすると保存する情報を確認できます。

保存情報

「情報の閲覧」ボタンをクリックすると、ここに保存情報が表示されます。

ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

不具合発生時の情報の保存

このページでは次の情報を示します。

不具合発生時の情報の保存

システム情報2の保存場所を設定します。「情報の閲覧」ボタンをクリックすると保存する情報を確認できます。

保存情報

「情報の閲覧」ボタンをクリックすると、ここに保存情報が表示されます。

ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

LCDパネル – メッセージ

この機能は、Web UI から LCD パネルにメッセージを送信できます。メッセージテキストは7行までで、各行26文字までです（空白および改行文字を含む）。行に26文字を超える文字がある場合、これに対するエラーメッセージが発行されます。

「送信」をクリックして、入力メッセージをディスプレイに送信します。

「クリア」ボタンをクリックして、入力テキストをクリアします。

ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

LCDパネル – PIN

LCD パネルの PIN を有効/無効にし、PIN として 4 桁の値を定義します。

「0000」（ゼロ 4 つ）の値を設定しても、PIN が無効になります。

ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の 4 つがあります。ここでは、これらの 4 つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

フロントサイドI/O管理

このページでは、フロントサイド I/O モジュールとサーバブレード間の割り当てを示します。

割り当て

サーバブレードと USB/DVD の間の割り当てと、現在フロントサイド USB/DVD モジュールに割り当てられているサーバブレードについての情報を表示します。

アクセス設定

フロントサイド USB/DVD モジュールにアクセスできるサーバブレードについての情報を表示します。

ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 割り当て
 - すべての役割について、選択したサーバブレードにアクセスを制限できます。
- アクセス設定
 - 「User」ロールでは、アクセスできません。
 - 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。
 - 「OEM」および「Operator」の役割で、選択したサーバブレードにアクセスを制限できます。

電源管理

このページには次のタブがあります。

↑ 履歴

消費電力モニタリング履歴表示オプション

消費電力モニタリング履歴を有効または無効にでき、消費電力モニタリング履歴の期間を設定できます。この期間は、以下の「システムユニット履歴グラフ」ボックスに表示される時間を定義します。

電力ユニットオプション

測定単位をワットから BTU/h、またはこの逆に切り替えられます。

入力電力の詳細

システムユニット

システムユニットの重要な消費電力値を棒グラフで表示します。

システムユニット履歴グラフ

選択した履歴期間の消費電力履歴をグラフで表示します。色分けした線の意味は、マウスを上に乗けると表示されます。

↑ 電源スイッチ

「電源スイッチ」タブを使用してシステムユニットの電源をオン/オフにし、毎日のオン/オフの時間を設定します。システムユニットの電源がオンの場合にすべてのサーバブレードをオン/オフするオプションもあります。

システム電源状態の現在値

システムユニットとサーバブレードは別のモードにオン/オフできます。

- **新しい状態**
 - **ハード電源切断**
すべてのサーバブレードとシステムユニットを即座にシャットダウンします。
 - **電源投入**
電源がオフの場合はシステムユニット自体の電源をオンにします。
 - **シャットダウンおよび電源切断**
すべてのサーバブレードをシャットダウンしますが、システムユニットはスタンバイモードのままです。

電力スイッチ設定

- **インベントリ収集方法の指定**
「自動」に設定されている場合、インベントリ収集は取り付けられているサーバブレードに対して自動的に、またはシステムユニットに電

源が投入されたときに実行されます。「手動」に設定されている場合、自動インベントリ収集は実行されません。この場合、「コンポーネント」-「サーバブレード」-「電源管理」でサーバブレードを個別にオンにして、サーバブレードのインベントリ取得を実行する必要があります。

サーバブレードの電源管理

ここで、すべてのサーバブレードを連続してシャットダウンするか（「シャットダウンおよび電源切断」モードで実行）、またはシステムユニットが動作中は連続して起動できます。

- 全サーバブレード電源投入/切断
 - 全サーバブレードの電源投入
すべてのサーバブレードの電源を入れます。
 - 全サーバブレードの電源切断
すべてのサーバブレードの電源を切ります。

iこの機能では、以下の「サーバブレード電源切断順序」ボックスで設定した順序と時刻を無視します。


システム電源投入/切断のスケジュールタイマー

このボックスでは、各曜日または週全体（「毎日」）について、システムの電源投入/切断の時間を設定します。

iここで設定した時間は1台以上のサーバブレードの対応する時間に優先します。「最適時刻」ボタンを使用してこのような競合を防止できます。これにより、サーバブレードにとって最適な時刻が表示されます。この場合にのみ、「適用」で設定を有効にできます。

「設定」 → 「リモート通知」（「イベントの設定」タブの「イベントログフィルタリング」ボックスの「電力管理」チェックボックス）で電力管理がアクティブになっている場合、アラートメッセージが送信されるまでの時間を前もって「トラップ」入力フィールドで設定できます。

サーバブレードの電源投入/切断順序

- 最初の電源投入/最後の電源切断
接続しているサーバブレードを右側のウィンドウに配置して目的の昇順に並べ替えて、順序を設定します。
これはサーバブレードを停止する必要があるあらゆる場合に適用されます（例えば、サーバブレードの電源がオンで、電力が不足している場合）。
- システム電源投入と最初のサーバブレード電源投入の遅延 (0-60)
システムの電源投入から最初のサーバブレードの電源投入までの待機時間（分単位）を指定します。
- 2つのサーバブレードの電源投入/切断の遅延 (0-10)
あるサーバブレードの電源投入から次のサーバブレードの電源投入までの待機時間（分単位）を指定します。

- サーバブレードの電源切断動作
「シャットダウンおよび電源切断」と「強制電源切断」を選択できます。
- サーバブレードをシャットダウンするには、ServerView エージェントをインストールして起動しておく必要があります。

↑ 入力電力制限

PSU 制御

- 一般 PSU 設定を有効にする
右側の「PSU のダイナミックモード」および「電源ユニットの冗長構成」を設定するアクセスを有効または無効にします。
- 電源のダイナミックモード
PSU のダイナミックモードを選択します。
- 「PSU のダイナミックモード」と「冗長性なし」が設定されている場合、アクティブな PSU のうち最後の PSU が十分な電力を供給できないとき直ちにシステムの電源が切断されます。
 - 無効
「PSU のダイナミックモード」なし（デフォルト）。
 - 標準
「PSU のダイナミックモード」。この設定によって、負荷の高い一部の電源ユニットを使用してその他のユニットを非アクティブにして、電力を節約できます。

入力電力システム制限

- 入力電力制限を有効にする
「入力システム電力の警告」および「現在可能な入力電力制限」を有効または無効にします。
- 現在可能な入力電力制限
実際の構成に依存する、可変範囲
- 電力が制限される場合に正確に制限値を計算するには、「入力電力制限を有効にする」を有効にするときにすべてのサーバブレードの電源を投入する必要があります。制限が設定された後は、サーバブレードを追加することはできません。

入力システム電力の警告

- 警告しきい値 (1-100)
警告しきい値をパーセントで指定します。デフォルトは 80%です。
- 連続許容期間 (1-7200)
制限ステータスが受理される期間を秒単位で定義します。
- 制限到達後の動作
制限しきい値を超えた場合の動作を設定します。

↑ 消費電力

システム消費電力モード

- **適応**
選択可能な2つのポリシーに従って、サーバブレードが使用できる電力の分配を有効または無効にします（デフォルトモード）。
- **最小**
消費電力を最小値に設定します。
[i]このモードでは、CPUクロック周波数は最低速度に強制され、消費電力は最低になります。
- **低ノイズ(BX400のみ)**
MMBはサーバブレードの消費電力を制御して、システムユニットファンのノイズが45dbを超えないようにします。その場合、サーバブレードは最低パフォーマンスで動作するよう強制されます。
- **サーバで管理**
以下の「サーバ制御の消費電力モードテーブル」ボックスを有効または無効にします。
- **スケジュールモード**
以下の「すべてのサーバブレードの消費電力スケジュール」を有効または無効にします。

適応モード

- **再評価期間 (1~60)**
「適応型電力制限」を再評価するポーリング間隔（分単位）を設定します。
- **再評価ポリシー**
 - **消費電力の需要**
サーバブレードに使用できる電力を、過去の消費量に応じて分配します。
 - **サーバブレードの優先度**
サーバブレードに使用できる電力を、優先度に応じて分配します。優先度は以下の優先度テーブルで定義され、最後に電源が切断されたブレードの優先度が最も高くなります。

サーバ制御の消費電力モードテーブル

個々のサーバブレードの消費電力モードを設定できます。2つのモードを選択できます:

- **iRMC 制御**
iRMCが制御を引き継ぎ、MMBが制御を引き継ぐ前に使用されていたローカル消費電力モードは有効です。

- **電力制限**

電力制限は右側の「入力限界値」列で設定されます。この値は iRMC にコピーされます。

また、入力限界値とサンプル期間も設定できます。

サーバブレードの消費電力スケジュール

すべてのサーバブレードについて、システムユニットに対する消費電力スケジュールを定義できます（「日曜日」から「土曜日」、または「毎日」）。

● 適応型電力制限の優先度テーブル

別の場合には優先度テーブルが必要です:

- 「適応型」消費電力モードでは、電源を追加した場合に、優先度テーブルを使用して指定されたサーバブレードの重要性を評価します。
- 「入力電力の制限」設定では、優先度テーブルを使用してサーバブレードの優先度に従って電源を切断するか、電源投入を防止します。
- 電力需要が過剰な場合は、MMB で優先度テーブルを使用して緊急シャットダウンを実行します。
- 電力制限に基づいてサーバブレードの電源が投入されると、ブレードは重要度に従ってオンになります。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます:

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

ローカルユーザー

適切な権限を持つ管理者はローカルユーザーアカウントを設定できます。

ローカルユーザーアカウント

- **有効**
アカウントの状態（有効または無効）を表示します。
- **名前**
ユーザー名を表示します。Administrator は、ユーザー名ハイパーリンクをクリックすると、ユーザーアカウントを設定できます。
- **ユーザーの権限**
ユーザーの権限を表示します。
可能な権限は「Administrator」、「OEM」、「Operator」、「User」です。
詳細は、「新しいユーザー」ボタンをクリックして表示される「新しいローカルユーザーアカウント」ページのオンラインヘルプを参照してください。

コマンドボタン

削除

ユーザーアカウントを削除します。

新しいユーザー

新しいユーザーアカウントの設定ページを表示します。

ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- アクセス権は、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。
- 設定を指定するオプションは、「Administrator」の役割から取り出せません（標準ユーザー「admin」の場合を除く）。

新しいユーザー

このページでは、新しいローカルユーザーを追加して設定できます。このページには次のセクションがあります。

↑ オプション

新しいローカルユーザーアカウント

- **有効**
アカウントの状態（有効／無効）を設定します。
i無効になっている場合、新規ユーザーはサインインできません。
- **名前**
ユーザー名を入力します。
- **パスワード**
パスワードを入力します。
- **パスワード(再入力)**
パスワードを再入力します。
- **ユーザーの権限**（以下の表を参照）
 - **Administrator**
ユーザーはシステムにアクセスするすべての権限を持っています。
 - **OEM**
ユーザーはシステムにアクセスするための全権限を持っていますが、ユーザーアカウントの設定または変更はできません。すべてのサーバベイへのアクセス権は制限できません。
 - **Operator**
ユーザーはシステムにアクセスするための全権限を持っていますが、ユーザーアカウントの設定または変更はできません。すべてのサーバベイへのアクセス権は制限できます。
 - **User**
ユーザーは読み取り権限のみを持っています。
- **サインイン時のダッシュボード (BX400のみ)**
サインインを標準ユーザーインターフェースで開始するか詳細 Web UI で開始するかを設定します。
- **使用シェル (Text アクセス) (BX900のみ)**
ユーザーにリモートマネージャ (CLI) または SM CLP インタフェースへのアクセスを許可します。
- **マネジメントブレードに対する権限の設定**
 - **システムアカウントの設定**
Administrator 権限を持つユーザーのみシステムアカウントを設定できます。
 - **ブレードシステム設定**
この特別な権限があれば、Web インタフェースまたはテキストベースのインタフェースを介してシステム設定を変更できます。

- サーバブレードに対する権限の設定
 - ユーザーアカウント設定
ユーザーがアクセスを許可されているサーバブレード上で、iRMC ユーザー管理を実行する権利を有効または無効にします。MMB Web UI から開始されたリモート管理に適用されます。
 - ブレードシステム設定
ユーザーがアクセスを許可されているサーバブレードを、a)サーバブレードタブを使用して MMB から、または b)MMB WEB UI から開始されたサーバブレードのリモート管理内から、管理する権利を有効または無効にします。
 - ビデオリダイレクション機能を有効にする
ユーザーがアクセスを許可されているサーバブレードで iRMC エースのグラフィカルリモートコンソールを使用する権利を有効または無効にします。理も - t - コンソールを MMB Web UI から直接開始するとき、およびリモートコンソールを MMB Web UI から開始したリモート管理内から呼び出すときに適用されます。
 - リモートストレージ機能を有効にする
この特別な権限があれば、サーバブレードの iRMC を介して利用できるストレージメディアにアクセスできます。これにより、サーバブレードの OS に I/O 機能（たとえば、OS パッチをインストールするための機能）を追加できます。
- コネクションブレード設定
コネクションブレードの「設定」タブに収集されたすべての設定を指定する権限を有効/無効にします。
- ユーザーアクティビティのログを有効にする
ユーザーアクティビティの記録を有効/無効にします。
「有効」：CLP、Web UI、SSH、または Telnet インターフェース経由でログインまたはログアウトするとき、すべてのイベントがシステムイベントログに表示されます。「無効」の場合は、これらのメッセージは抑制されます。
1VIOM Manager を使用している場合、「有効」オプションを使用しないことを推奨します。VIOM が複数のログインを実行するため、システムイベントログがオーバーロードしてしまうためです。
- アクセスするブレードの設定
ベイへのアクセスは、マネジメントブレード、サーバブレード、コネクションブレードに付与/制限できます。これにより、システムユニット内でユーザーに表示されるトップレベルのコンポーネントが指定されます。

↑ 役割/権限

ローカルユーザー権限										
ロール/ ユーザーの 権限	MMB の権 限		iRMC の権限				ブレードの権限			
	シス テム アカ ウン トの 設定 1	ブレ ード シス テム 設定 2	ユー ザー アカ ウン トの 設定 3	ブレ ード シス テム 設定 4	ビデ オリ ダイ レク シヨ ン機 能を 有効 にする 5	リモ ート スト レー ジ機 能を 有効 にする 6	コネ クシ ョン ブレ ード の設 定 7	サー バブ レー ード への アク セス 8	コネ クシ ョン ブレ ード にア クセ スす る 9	マネ ジメ ント ブレ ード への アク セス 10
<i>Administrator</i>	はい	はい r/o	はい r/o	はい r/o	はい r/o	はい r/o	はい r/o	すべ て r/o	すべ て r/o	はい r/o
<i>OEM</i>	いい え r/o	はい	はい	はい	はい	はい	はい	すべ て r/o	全 て (-)	はい
<i>Operator</i>	いい え r/o	はい	はい	はい	はい	はい	はい	全 て (-)	全 て (-)	はい
<i>User</i>	いい え r/o	いい え r/o	いい え	いい え	いい え	いい え	いい え r/o	なし	なし	いい え

i ユーザーが作成されたとき、表には各役割の「デフォルト値」が表示されます。つまり、「r/o」というフラグ付きの例外を除いて、値は個別に修正できるといことです。

以下の表は、上記の表のインデックス付きの列見出しと、該当するメニュー項目および Web UI での個々のページとの割り当てを示します。

影響を受ける Web UI コンポーネントの権限（役割）の詳細は、関連するヘルプページの末尾にあります。

イン デッ クス #	影響される Web UI コンポーネント
1	操作/ユーザー管理/*。
2	<p>コンポーネント/システムユニット、 情報/<システムイベントログ、システム情報の保存、不具合発生時の情報の保存>、 操作/LCD パネル、操作/電源管理、 操作/インストール管理/インストールベースの変更、操作/バックアップ/復元管理、</p> <p>操作/アセットタグ管理、操作/ファームウェアアップデート、操作/証明書の操作、 設定/システムユニット/*、設定/言語、設定/基本設定ウィザード、 MMB-*、VIOM 再起動; ダッシュボード: システムユニット領域、フロントビュー/リアビュー、電源領域。</p>
3	詳細は、この機能に関連する iRMC ページを参照してください。
4	<p>操作/インストール管理/OS のインストール、サーバブレード-*/*、サーバブレード-*/*識別灯、 ストレージブレード-*/*設定、ストレージブレード-*/*識別灯; ダッシュボード: フロントビュー/<割り当て、電力、識別灯ボタン>。</p>
5	<p>コンポーネント/ブレードシステム: ブレードシステム -: 状態の概要/サーバブレードの状態/列の開始ボタン「ビデオリダイレクション」、サーバブレード-*/*ボタン「ビデオリダイレクション」; ダッシュボード: フロントビュー/コンソールボタン。</p>
6	詳細は、この機能に関連する iRMC ページを参照してください。
7	コンポーネント/スイッチブレード-*/*の「電源管理」、「設定」、「バックアップ/復元」タブ。
8	<p>表示先: フロントビュー、ダッシュボードフロントビュー領域、コンポーネント/サーバブレードのツリー、コンポーネント/ストレージブレードのツリー、 「ブレードシステム -: 状態の概要」ページのサーバブレードの状態の表およびストレージブレードの状態の表、 情報/搭載コンポーネント概要、 操作/フロントサイド I/O 管理/割り当て、操作/フロントサイド I/O 管理/アクセス設定、 操作/インストール管理/OS インストール、 操作/電源管理/設定/サーバブレードの消費電力制御 (BX400 のみ)、 操作/アセットタグ管理、 ダッシュボード/イベントログ領域。</p> <p>(-) 注: 1つのサーバブレードにアクセスを制限できます。</p>

イン デッ クス #	影響される Web UI コンポーネント
9	<p>表示先: リアビュー、ダッシュボードリアビュー領域、コンポーネント/コネクションブレードのツリー、「ブレードシステム -: 状態の概要」ページの「スイッチブレードの状態」表、 情報/搭載コンポーネント概要、 情報/アセットタグ管理、 ダッシュボード/イベントログ領域。 (-) 注: 1つのサーバブレードにアクセスを制限できます。</p>
10	<p>表示先: リアビュー、ダッシュボードリアビュー領域、コンポーネント/マネジメントブレードのツリー、「ブレードシステム -: 状態の概要」ページの「マネジメントブレードの状態」表、 情報/搭載コンポーネント概要、 情報/アセットタグ管理、 ダッシュボード/イベントログ領域。</p>

✦ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

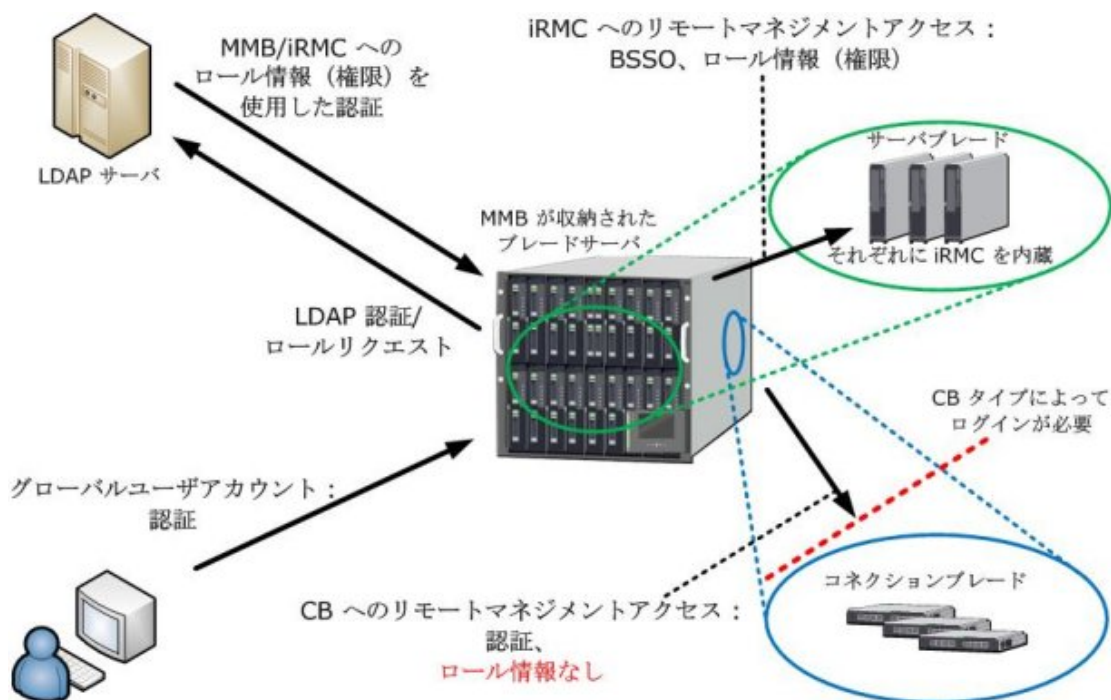
- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- アクセス権は、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。
- 設定を指定するオプションは、「Administrator」の役割から取り出せません（標準ユーザー「admin」の場合を除く）。

グローバルユーザー

このページでは、MMB が LDAP サーバへの要求を処理する方法を設定できます。このページには次のセクションがあります。

↑ はじめに: LDAP の概念

認証が成功すると、MMB はユーザーの役割情報を評価して、ユーザーに対して MMB での関連するアクションの実行を許可します。このようなアクションの 1 つのサーバブレードアクセス (BSSO) では、サーバブレード上の認証情報が要求されます。このために、MMB はユーザーが「Department」のメンバーであるかどうかを確認します。これは該当するサーバブレード (iRMC) 上の LDAP 設定で参照されます。この場合、BSSO の処理中に役割情報が読み込まれ、iRMC に転送されて今後の認証に使用されます。全体の構造を、以下の図に示します。



注意:

- ユーザーは、さまざまなサーバブレード/iRMC とは異なる役割/許可を MMB 上で保有できます (MMB では役割 X で iRMC₃ では役割 Y と Z、または MMB では役割 Y、サーバブレード b では役割 X で iRMC₂ では役割 X、Y、Z など)。
- グローバルユーザーはローカルユーザーに 1:1 でマッピングすることはできず、その逆もできません。権限の概要を、対応するローカルユーザーの表と比較してください。
- LDAP 役割規則はコネクションブレードには使用できません。コネクションブレードに MMB からアクセスするとき、コネクションブレード

ドで既知のユーザーアカウントを使用して、再度認証する必要があります。ここでは以下の点を考慮してください:

1. サーバブレードの場合に MMB が指定する認証情報はコンネクションブレードには存在しない。
2. または BSSO サポートがない場合。

グローバルユーザー権限										
動作モード (FTS Deployment Tool v2 の定義に従う)	MMB の権限		iRMC の権限				ブレードの権限			
	システムアカウントの設定 1	ブレードシステム設定 2	ユーザーアカウントの設定 3	ブレードシステム設定 4	ビデオリダイレクション機能を有効にする 5	リモートストレージ機能を有効にする 6	コンネクションブレードの設定 7	サーバブレードへのアクセス 8	コンネクションブレードにアクセスする 9	マネジメントブレードへのアクセス 10
<i>Administrator</i>	情報無し	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
<i>Maintenance</i>	情報無し	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	はい	いいえ	はい
<i>CustomRole</i>	情報無し	いいえ (1)	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ (2)	いいえ	いいえ
<i>Monitor</i>	情報無し	いいえ (1)	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ (2)	いいえ	いいえ
<i>Operator</i>	情報無し	いいえ (1)	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ (2)	いいえ	いいえ

(1) ファンユニットの背面のビュー、PSU のビュー、温度およびフロントサイド I/O モジュール (BX400) のビューは、「コンポーネント/ブレードシステム」 - 「状態の概要」で許可されます。Web UI 言語を切り換えることもできます。

(2) ユーザーが iRMC と同じ部署にいるかどうかによってアクセス権は異なります。アクセスが可能な場合、表示のみに制限されます。

以下の表は、上記の表のインデックス付きの列見出しと、該当するメニュー項目および Web UI での個々のページとの割り当てを示します。

イン デッ クス #	影響される Web UI コンポーネント
1	操作/ユーザー管理/*
2	コンポーネント/システムユニット、情報/<システムイベントログ、システム情報の保存、不具合発生時の情報の保存>、 操作/LCD パネル、操作/電源管理、 操作/インストール管理/インストールベースの変更、操作/バックアップ/復元管理、 操作/アセットタグ管理、操作/ファームウェアアップデート、操作/証明書の操作、 設定/システムユニット/*、設定/言語、設定/基本設定ウィザード、 MMB-*、VIOM 再起動; ダッシュボード: システムユニット領域、フロントビュー/リアビュー、電源領域
3	詳細は、この機能に関連する iRMC ページを参照してください。
4	操作/インストール管理/OS のインストール、サーバブレード-*/*、サーバブレード-*/*識別灯、 ストレージブレード-*/*設定、ストレージブレード-*/*識別灯; ダッシュボード: フロントビュー/<割り当て、電力、識別灯ボタン>。
5	コンポーネント/ブレードシステム: ブレードシステム -: 状態の概要/サーバブレードの状態/列の開始ボタン「ビデオリダイレクション」、サーバブレード-*/*ボタン「ビデオリダイレクション」; ダッシュボード: フロントビュー/コンソールボタン。
6	詳細は、この機能に関連する iRMC ページを参照してください。
7	コンポーネント/スイッチブレード-*/*の「電源管理」、「設定」、「バックアップ/復元」タブ。
8	表示先: フロントビュー、ダッシュボードフロントビュー領域、コンポーネント/サーバブレードのツリー、コンポーネント/ストレージブレードのツリー、 「ブレードシステム -: 状態の概要」ページのサーバブレードの状態の表およびストレージブレードの状態の表、 情報/搭載コンポーネント概要、 操作/フロントサイド I/O 管理/割り当て、操作/フロントサイド I/O 管理/アクセス設定、操作/インストール管理/OS インストール、 操作/電源管理/サーバブレードの消費電力制御 (BX400 のみ) 、 操作/アセットタグ管理、 ダッシュボード/イベントログ領域。

イン デッ クス #	影響される Web UI コンポーネント
9	表示先: リアビュー、ダッシュボードリアビュー領域、コンポーネント/コネクションブレードのツリー、「ブレードシステム -: 状態の概要」ページの「スイッチブレードの状態」表、 情報/搭載コンポーネント概要、 情報/アセットタグ管理、 ダッシュボード/イベントログ領域。
10	表示先: リアビュー、ダッシュボードリアビュー領域、コンポーネント/マネジメントブレードのツリー、「ブレードシステム -: 状態の概要」ページの「マネジメントブレードの状態」表、 情報/搭載コンポーネント概要、 情報/アセットタグ管理、 ダッシュボード/イベントログ領域。

↑ オプション

グローバルディレクトリサービスの設定

- **LDAP を有効にする**
このオプションは、MMB がディレクトリサービス経由でユーザーを認証および承認できるかどうかを指定します。
- **LDAP SSL を有効にする**
このオプションを有効にすると、MMB と LDAP サーバ間のデータ転送が SSL で暗号化されます。（MMB にアップロードする有効な CA 証明書が必要です）
- **ローカル ID でのログイン禁止**
 - LDAP 認証のない MMB へのログインオプションを無効にします。
 - LDAP が有効でも LDAP サーバにアクセスできない場合は、MMB にサインインできません。
- **常に SSL ログインを使用**
 - MMB Web UI でのみ SSL ログインを有効にします。このオプションは、LDAP が有効の場合に自動的に有効にされます。ただし、LDAP が無効の場合は、この設定によってユーザーは HTTPS 経由でローカルユーザーとしてサインインを強制されます。
- **ディレクトリサーバの種類**
LDAP サーバのタイプを指定します。
- **IPv4**
 - **LDAP サーバ1:** プライマリ LDAP サーバの IPv4 アドレスを指定します。
 - **LDAP サーバ2:** セカンダリ（バックアップ）LDAP サーバの IPv4 アドレスを指定します。

- IPv6
 - LDAP サーバ1: プライマリ LDAP サーバの IPv6 アドレスを指定します。
 - LDAP サーバ2: セカンダリ (バックアップ) LDAP サーバの IPv6 アドレスを指定します。
- ドメイン名
LDAP サーバの DNS 名を指定します (testdomain1.local など)。これはディレクトリサービス全体のルートまたは開始点です。
- 基本ドメイン名
LDAP 表記に従って、コンマ区切りで、DNS 名のコンポーネント (識別名) を表示します (dc=testdomain1, dc=local など)。
- 検索範囲
検索プロセスを利用するため、このオプションでは組織単位のコンマ区切りリスト (ou=testou1, ou=testou2 など) を使用して、SVS 構造がベース DN で検出される条件を判定します。必須ではありません。
OU を正しい順序で入力する必要があります。最も高い SVS OU を検索の開始点としてください。
- Department
特定のユーザーが検出される SVS 構造内の部署の名前。

ディレクトリサービスのアクセス設定 (eDirectory および OpenLDAP のみ)

- LDAP 認証ユーザー名
MMB が LDAP サーバへのログオンに使用するユーザー名。
- LDAP 認証ユーザーパスワード
MMB が LDAP サーバ上のユーザーを認証するために使用するパスワード。
- パスワード(再入力)
「LDAP 認証ユーザーパスワード」で入力したパスワードを再度入力します。

詳細は、『PRIMERGY ServerView Suite. iRMC S2/S3 - integrated Remote Management Controller』の第4章を参照してください。

ユーザーセッション情報

このページには、現在サインインしているすべてのユーザーの概要が示されています。

ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- アクセス権は、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

ダッシュボードアクセス

このページでは、ダッシュボードのグローバルな使用方法を有効または無効にできます。

ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- アクセス権は、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。
- 設定を指定するオプションは、「Administrator」の役割から取り出せません（標準ユーザー「admin」の場合を除く）。

OSのインストール

このページではサーバブレードへのオペレーティングシステムの簡単なインストール方法を説明します。OSを選択して、1つまたは複数のサーバブレードにインストールします。このページには次のセクションがあります。

↑ 簡易インストールの要件

- MMB Web UI が装備されているローカル/リモートコンソールがアクティブになっている（このヘルプテキスト参照時に実現されている）。
- OS インストールメディアが、システムユニットのフロント-サイド I/O モジュールの DVD ドライブに挿入されている。
- ServerView Installation Manager (SVIM) を格納したブート可能な USB スティックが、システムユニットのフロントサイド I/O モジュールにある USB ポートに接続されている必要があります。

○ SVIM USB スティックの作成:

SVIM は ServerView Suite (SVS) の一部で、新しい PRIMERGY サーバに付属しています。ユーザーは、SVS DVD 1 のルートフォルダにある Setup.exe から、ブート可能な USB スティックを作成できます。詳細は、『ServerView Installation Manager – 取扱説明書』を参照してください。

- USB スティックが作成されるシステムの場合は、OS プラットフォームとして最低でも Windows Vista/Windows 7 または Windows Server 2008 が必要です。管理者権限が必要となることに注意してください。
- 容量 8 GB 以上のブート可能な USB スティック (2.0) が必要です。作成プロセスで、スティックに格納されたすべてのデータが削除されることに注意してください。
- コピープロセスの時間は、DVD の読み取り速度と USB スティックの書き込み速度によって異なります。SVS DVD 1 をハードディスクにあらかじめコピーしておく、速度を上げることができます。

USB 2.0 デバイス (スティックとポート) の使用を推奨します。

- "SVIMtoUSB.bat" ファイルを実行し、USB 準備方法として、「デプロイメント」オプションに「2」を入力します。次に、システムで現在使用できる USB スティックのリストから、デバイス名と容量を使用して準備されるスティックを、関連付けられた USB デバイスの論理番号を使用して洗濯します。

↑ OS のインストール

「OS のインストール」ページは、主に次のブロックから構成されています。

- インストールターゲット (1つ、複数、またはすべてのサーバブレード)
 - ❑ ターゲットサーバブレードのディスク上の既存のデータは、インストール時に削除されます。
- OS の選択 (Windows、Linux または Hypervisor OS バージョン)
- OS のインストールオプション (選択した OS の種類によって異なります)

インストールターゲット

- **すべてのサーバブレード**
 選択した OS を使用可能なすべてのサーバブレードにインストールする場合に、このオプションをアクティブにします。
- **ブレードベイの割当図 (ベイ1~8)**
 ここに、システムユニットのすべてのブレードベイの割り当てがシンボリックなフロントビューとして表示されます。サーバブレードは黒で表示されます。サーバブレード (フロントサイド I/O モジュール (DVD および USB) アクセスから厳密には除外されていない) には、それぞれチェックボックスがあります。選択した OS のインストール先サーバブレードをアクティブにするか、いくつかのサーバブレードを非アクティブにします。
 ⓘ サーバブレードに OS をインストールするには、MMB ローカルユーザー権限「ブレードシステム設定」が必要です。グローバルユーザーの場合、役割 (権限) 「Administrator」または「Maintenance」を持つ場合のみ可能です。
- **インストールの進行状況**
 インストール中に、個々のサーバブレードのインストールプロセスが、色付きの折れ線グラフでここに表示されます。
 - グレーの線：インストールが進行中です。
 - 緑の線：インストールが正常に完了しました。
 - 赤い線：インストールが失敗しました。

OS の選択

インストールのために表示される OS の一覧は、「インストールベースの変更」ページ (ナビゲーションツリーの次のノード) を使用してアップデートできます。

- **OS の種類**
 選択したサーバブレードにインストールするオペレーティングシステムを選択します。
- **OS バージョン/ディストリビューション**
 選択した OS の版数または配布を選択します。
- **OS エディション**
 選択した OS 版数または OS 配布のエディションを選択します。

OS のインストールオプション

上で選択した OS に応じて、少しだけ異なる 3 種類の異なるメニューが表示されます:

1. Windows

- **管理者パスワード**
Windows インストールのパスワードを設定します。このログイン設定は、選択したサーバブレードで管理者パスワードとして使用されます。1~14 文字を使用します。*
- **パスワード(再入力)**
パスワードを再入力します。
- **地域と言語のオプション**
インストールする OS のロケール設定を選択します (キーボードレイアウトを含む)。
- **非 OEM 製品 ID (Fujitsu OEM 以外の OS インストールメディアの場合のみ)**
インストールする Windows OS の製品 ID (ライセンスキー) を入力します。

2. Linux

- **ルートパスワード**
Linux インストールのパスワードを設定します。このログイン設定は、選択したサーバブレードで root パスワードとして使用されます。1~14 文字を使用します。*
- **パスワード(再入力)**
パスワードを再入力します。
- **地域と言語のオプション**
インストールする OS のロケール設定を選択します (キーボードレイアウトを含む)。
- **RH5 のインストール番号 (OS RH5 の場合のみ)**
Red Hat Enterprise Linux 5 のインストール番号を入力します。

3. Hypervisor

- **ルートパスワード**
Hypervisor インストールのパスワードを設定します。このログイン設定は、選択したサーバブレードで root パスワードとして使用されます。1~14 文字を使用します。*
- **パスワード(再入力)**
パスワードを再入力します。
- **地域と言語のオプション**
インストールする OS のロケール設定を選択します (キーボードレイアウトを含む)。

* インストールされている OS の要件に従って安全なパスワードを使用してください。

↑ その他のオプション

- エラー発生時にインストールを中断する
サーバブレードへのインストールが失敗した場合にインストールシーケンスの中断を有効/無効にします。デフォルト設定（無効にする）では、現在のインストールが失敗しても、次のサーバブレードへのインストールが開始します。
- インストールの状態
ここに、現在のインストールステップに関するメッセージが表示されます。先頭には、現在のサーバブレードのブレードベイ番号が付きます。
- インストールの進行状況履歴
ここでは、すべてのインストールメッセージのリストを一覧します。このリストはスクロールできます（「アップデート状況のクリア」ボタンで削除できます）。
iメッセージ「インストールが失敗しました」が表示された場合、ログファイルが USB スティック、フォルダ「\Logfile」にコピーされます。ログファイルを参照して、エラーを確認してください。

↑ コマンドボタン

- アップデート状況の保存
インストール（シーケンス）の完了後、このボタンをクリックすると、「インストールの進行状況履歴」をブラウザローカルファイルに保存できます。このファイルのフォルダは選択できますが、デフォルトのファイル名は"Install<タイムスタンプ>.txt"です。
- アップデート状況のクリア
このボタンをクリックすると、「インストールの進行状況履歴」、および「インストールの進行状況」バーの上にある可視化のための折れ線グラフが削除されます。
- 適用
後で使用できるように現在の設定を保存します。後で「OS のインストール」ページが再び表示された時に、これらの設定がアクティブになります。
- インストールの開始
インストールを開始します。現在の設定は後で使用するために保存されません。インストール中、最初はターゲットサーバブレードがフロント I/O モジュール（DVD と USB）に割り当てられ、次に OS と ServerView がインストールされます。インストールシーケンスで、サーバブレードは 1 台ずつ処理され、左端のベイ（ベイ番号の小さい順）のサーバブレードから処理が開始されます。インストールされたブレードには、次の命名規則に従って名前が付けられます。
"Blade-<スロット番号>-<7桁の動的な拡張子>"

MMB の地域設定（タイムゾーンと言語）がインストールされた OS に適用されます。

○ **ターゲットストレージデバイスが SVIM で選択される方法**

RAID 設定はオンボード RAID コントローラで制御され、SV RAID マネージャによって SVIM インストールセッションの一部として設定されます。

1. 既存の RAID アレイを使用することを推奨します。RAID コントローラで検出された最初の論理ディスクは優先インストールターゲットとして使用されます。通常、RAID コントローラの順序は、サーバブレードの内部コントローラ→外部（ストレージブレード）コントローラです。
2. 論理 RAID ディスクが検出されなかった場合、IDE/SCSI/SAS ドライブグループがスキャンされます。このデバイスクラスに 1 つ以上の論理ディスクがある場合、リストの最初のもので新しいターゲットデバイスとして使用されます。
3. IDE/SCSI/SAS ディスクがない場合、設定されていないすべての RAID コントローラが検出されます。ディスクが接続されたリスト内の最初のコントローラがターゲットインストールデバイスとして設定されます。

i いずれの場合でも、ターゲットディスクに既存のデータがある場合は、デプロイメント中に削除されます。

● **インストールの中止**

このボタンによって、確認のメッセージ「現在のインストール（シーケンス）を中断しますか？」が表示され、「中止の確認」と「キャンセル」ボタンが有効になります。

● **中止の確認**

このボタンをクリックすると、現在のインストール（シーケンス）が中断されます。OS のインストールをファイナライズするために既に起動されているサーバブレードの OS インストールは中断できません。

● **キャンセル**

このボタンをクリックすると、中断要求がキャンセルされます。現在のインストール（シーケンス）が続行されます（中断されません）。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- OSをインストールするオプションは、「User」の役割から取り出せません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せません。
- すべての役割について、選択したサーバブレードにアクセスを制限できます。

インストールベースの変更

このページでは、新しいバージョンの SVIM (ServerView Installation Manager) をインストールできるため、MMB ファームウェアをアップデートせずに新しいオペレーティングシステムをインストールできます。Web ブラウザのローカルシステムで SVIM コンフィギュレーションファイル

(InstallOsDef.xml) を検索できます。これは各 SVS DVD 1 のルートフォルダにあります。このファイルをインポートした後、SVIM バージョンとサポートする OS エディションが確認され、その両方が表示されます。管理者はこれを使用して、現在のバージョンと新しいバージョンを比較できます (特殊な MMB 特権「ブレードシステム設定」が必要)。

i 後者はローカルユーザーにのみ適用されます。グローバルユーザーの場合、役割 (権限) 「Administrator」または「Maintenance」を持つ場合のみ可能です。新しいバージョンを MMB に使用できることが確認されるとすぐに、新しいファイルが有効になります。

i アップデートされた "InstallOsDef.xml" ファイルは、MMB が次にリブートされた (または MMB 2 台の場合は役割が変更された) 後に有効になります。その後、MMB ファームウェアのデフォルトの "InstallOsDef.xml" バージョンが再度有効になります。

オプション

- *現在のインストールベースバージョン*
現在の "InstallOsDef.xml" ファイルの SVIM バージョンが表示されます。
- *サポートする OS エディション*
現在使用可能な OS がすべて一覧表示されます。この一覧はスクロールできます。
- *新しいインストールベースファイル*
現在のバージョンよりも新しい "InstallOsDef.xml" ファイル (たとえば、新しい SVS DVD 1 のルートフォルダ) を参照して、選択します。
- *新しいインストールベースファイルの版数*
新しい "InstallOsDef.xml" ファイルの SVIM バージョンが表示されます。
- *ファイルのチェック*
選択したファイルの妥当性を確認します。
- *サポートする OS エディション*
新しいインストールベースで使用可能な OS がすべて一覧表示されます。この一覧はスクロールできます。

コマンドボタン

アップデート

このボタンをクリックすると、「現在のインストールベースを新しい版数に置き換えてもよろしいですか?」という確認メッセージが表示され、「アップデートの確認」ボタンと「キャンセル」ボタンがアクティブになります。

アップデートの確認

現在の"InstallOsDef.xml"を新しいファイルの版数に置き換えます。

キャンセル

現在の"InstallOsDef.xml"はアクティブなままになります。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

バックアップ/リストア – BIOS

このページには次のタブがあります。

↑ バックアップ

選択されたサーバブレードのすべてまたは一部のパラメータセットの保存を許可します。

- サーバブレードの *BIOS* パラメータ
BIOS 設定をバックアップするサーバブレードを 1 つ選択します。

現在の BIOS 設定

選択されたサーバブレードの現在の BIOS 情報を表示します。以下の値があります

- ブート設定
- チャンネル設定
- セキュリティの設定
- コンソールリダイレクションの設定
- その他の設定

バックアップするパラメータセット (完全)

グループまたは詳細項目でバックアップするパラメータを選択します。

バックアップ方法の設定

バックアップ先を指定し、バックアップを開始します。

↑ 復元

指定した BIOS 情報を 1 台以上のサーバブレードにリストアすることを許可します。

復元元

照合機能によって 1 台以上のサーバブレードにリストアされるバックアップファイルまたはサーバブレードの選択を許可します。

BIOS 設定を復元

バックアップファイルまたは選択したサーバブレードからパラメータを取得して、リストア前に直接変更できます。

復元パラメータの設定 (完全)

グループまたは詳細項目でリストアするか選択します。

復元

リストア先を指定し、リストアを開始します。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

バックアップ/リストア – iRMC

このページには次のタブがあります。

↑ バックアップ

iRMC の設定をバックアップするサーバブレードを選択し、選択したパラメータを使用してバックアップを実行します。

i タイプ S4 のサーバブレードは、上部の選択メニューに表示されません。

この機能により、サーバブレードのサービスプロセッサ (iRMC) 構成を使用して追加のサーバブレードの構成を簡素化することができます。このためにセクタ a) ユーザー管理および b) IP ネットワークから定義された設定値 (iRMC 設定変数) はメディア (USB、メモリ、ローカルファイル) にバックアップされます。

i バックアップを正常に実行するには、MMB のステータスディスプレイが緑に点灯している必要があります。

↑ 復元

リストア元メディアから iRMC 設定をロードし、選択したサーバブレードにパラメータをリストアします。

リストアを実行するには、事前にバックアップが完了しており、該当するバックアップファイルが USB を介して使用可能であるか、すでにマネジメントブレードのメモリに格納されている必要があります。バックアップファイルに収録された設定データを編集し、1 台のサーバブレードまたは同じタイプの複数台のサーバブレードにコピーできます。これにより、サーバブレードのサービスプロセッサがすべて同じ設定になります。

i リストアを正常に実行するには、MMB のステータスディスプレイが緑で点灯している必要があります。

↑ ロールの配布に基づく権限

ユーザーに割り当てられるロールは、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の 4 つがあります。ここでは、これらの 4 つのロールに以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

アセットタグ管理

アセットタグ管理によって、現在のすべてのアセットタグを1回で変更できます。ユーザーは以下のコンポーネントに対して識別用の ASCII 文字列を 40 文字までで定義できます。

- システムユニット自体
- マネジメントブレード
- サーバブレード
- ストレージブレード
- コネクションブレード

i すべてのアセットタグは固有にしてください。

ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」、「OEM」、および「Operator」の役割で、特定のコンポーネントにアクセスを制限できます。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。
- 「User」の役割では設定を指定できません。

ファームウェアアップデート

このページには次のタブがあります。

↑ マネジメントブレード

ファームウェアアップデート設定 (アップロード/USB)

- **アップデートファイルメディア**
ローカルファイルまたは USB (USB スティックを使用している場合にのみ表示)
- **ローカルアップデートファイル**
ファームウェアアップデートのソースファイルを選択します。
- **ファームウェアアップデートモード**
アップデートする MMB を選択します (MMB、スレーブまたはこの両方)。
- **状態**
アップデートアクティビティを表示します。

コマンドボタン

アップデートの開始

ファームウェアファイルイメージがアップロードされ、ファームウェアアップデートが開始します。

USB ファイル名のテスト

USB スティック上のファームウェアファイルイメージが確認されます。

テストステータスのリセット

「状態」行をクリアします。

ファームウェアアップデート設定 (TFTP/HTTP)

- **プロトコル**
転送プロトコルを選択します。
- **サーバアドレス/名前**
サーバの IP アドレスまたは名前を指定します。
- **アップデートファイル**
ファームウェアアップデートのソースファイルを選択します。

HTTP 認証

- **サーバアカウント**
HTTP サーバにユーザ名をを入力します。
- **パスワード**
HTTP サーバのパスワードを入力します。
- **パスワード(再入力)**
HTTP サーバのパスワードを確認します。

- **ファームウェアアップデートモード**
アップデートする MMB を選択します (MMB、スレーブまたはこの両方)。
- **状態**
アップデートアクティビティを表示します。

コマンドボタン

アップデートの開始

ファームウェアアップデートを開始します。

適用

ファームウェアアップデート設定が保存されます。

テスト接続

HTTP 接続を確認します。

テストステータスのリセット

「状態」行をクリアします。

アップデート状況

アップデートステータスの情報を示します (ファームウェアアップデートの実行中にのみ表示)。

↑ サーバブレード

アップデートするサーバブレード

このボックスは以下のように構成されます:

- **[サーバの選択]**
1つ以上のサーバブレードを選択します。
- **スロット**
ブレードのスロット番号を表示します。
- **動作ステータス**
アイコンで運用状態を表示します。
- **製品名**
製品名を表示します。
- **ファームウェア版数**
BIOS および iRMC のファームウェアバージョンを表示します。
- **ポート**
アップデートに使用するポートを表示します。
- **アップデート**
アップデート対象のファームウェアを表示します (BIOS または iRMC、以下の「設定のアップデート」ボックスを参照)。
- **TFTP アドレス**
アップデートに使用する TFTP アドレスを表示します。
- **ファイル名**
ダウンロードサーバ上の、新しいファームウェアを含むパスとファイル名を表示します。

- **状態**
アップデートの状態に関する情報を提供します。

コマンドボタン

すべての状態のクリア

このボックスの最後の4列にあるすべてのエントリが削除されます。

設定のアップデート

- **アップデート**
アップデートするファームウェアを選択します (BIOS または iRMC)。
- **TFTP アドレス**
アップデートに使用する TFTP アドレスを選択します。
- **ファイル名**
ダウンロードサーバ上の、新しいファームウェアを含むパスとファイル名を選択します。

コマンドボタン

テスト接続

TFTP アドレス、ファイル名、選択されたサーバブレードを使用できるかどうかを確認されます。結果は、上のボックスの「状態」列に表示されます。

開始

ファームウェアアップデートを開始します。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

サーバ証明書

このページには次のタブがあります。

↑ 証明書

SSL/SSH 証明書の詳細（版数、シリアル番号、署名アルゴリズム、有効期間、被認証者名、発行者名など）を表示します。

証明書のアップロード

空白のフィールドに秘密鍵と証明書を貼り付けることができます。

↑ 証明書署名要求

証明書署名要求(CSR)の生成

- *公開鍵のサイズ*
公開鍵のサイズを選択します。
- *国名*
国名を選択します。
- *地域名*
地域名を入力します。
- *設置場所*
設置場所を入力します。
- *組織*
組織名を入力します。
- *部署名*
組織の部門ごとに異なる証明書が存在する場合に必要です。
- *通常名*
一般に、通常名はホストとドメイン名で構成されます。証明書がイントラネット（または内部ネットワーク）上で有効である場合、通常名を1つの語で表すことも、サーバブレードの名前にすることもできます。
- *電子メールアドレス*
連絡先電子メールアドレス。

証明書署名要求または秘密鍵のダウンロード

- *署名要求のダウンロード*
マネジメントブレードから証明書署名要求ファイルをダウンロードします。
- *秘密鍵のダウンロード*
マネジメントブレードから秘密鍵をダウンロードします。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- OSをインストールするオプションは、「User」の役割から取り出せません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

ユーザー証明書

このページでは次の情報を示します。

- ユーザー名
マネジメントブレードが証明書を発行するユーザー名を指定します。
- ユーザー証明書の
パスワード
ユーザー証明書のためのパスワードを入力します。
- パスワード(再入力)
確認のため、ユーザー証明書のためのパスワードを再度入力します。

コマンドボタン

ユーザー証明書の発行を開始

ユーザー証明書を発行します。

ユーザー証明書をダウンロード

発行されたユーザー証明書をダウンロードします。ユーザー証明書が発行されていないと、最初にユーザー証明書を発行することを求めるエラーメッセージが表示されます。

ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- OSをインストールするオプションは、「User」の役割から取り出せません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せません。



サービスLAN

このページでは次の情報を示します。

ポート設定

- **有効にするプロトコル版数**
IPv4: MMB サービスポートに対してのみ IPv4 アドレスを有効にします。
IPv4 と IPv6: MMB サービスポートに対して IPv4 と IPv6 アドレスを有効にします。
- **デュプレックスモードの確認**
MMB のサービスポートの NIC の現在のデュプレックスモードを表示します。
- **デュプレックスモードの設定**
MMB サービスポートの NIC のデュプレックスモードを設定します。

IP アドレス設定

- **IPv4**
 - **IP アドレス**
MMB のサービスポートに IPv4 アドレスを設定します。
 - **サブネットマスク**
MMB のサービスポートのサブネットマスクを設定します。
 - **ゲートウェイ**
MMB のサービスポートのゲートウェイを設定します。
 - **このゲートウェイをデフォルトで有効にする**
サービス LAN ゲートウェイをデフォルトゲートウェイとして有効にします。
 サービス LAN ゲートウェイをデフォルトとして設定すると、管理 LAN ゲートウェイが非アクティブになります。
- **IPv6**
 - **リンクローカル IP アドレス**
MMB のサービスポートのリンクローカル IPv6 アドレスを表示します。
 - **グローバル静的 IP アドレス**
MMB に固定 IPv6 アドレスを定義できるようにします。
 アドレスの形式と省略のルール:
IPv6 アドレスは、コロンで区切られた 16 ビットの 16 進数の 8 グループで表現されます (例 `2001:0db8:85a3:0000:0000:8a2e:0370:7334`)。IPv6 アドレスは、16 ビット数値の先頭のゼロを省略したり (例 `2001:db8:85a3:0:0:8a2e:370:7334`)、ゼロの連続を 2 つのコロンで置換することができます (例 `2001:db8:85a3::8a2e:370:7334`)。
 - **グローバルステートレス IP アドレス**
ルータから取得した MMB サービスポートの 1 つ以上の IPv6 アドレスを表示します。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

管理LAN



このページには次のタブがあります。

↑ ネットワークの設定

↑ポート設定

- 有効にするプロトコル版数
 - IPv4
IPv4 アドレスを MMB 管理ポートに対してのみ有効にします。
 - IPv4 と IPv6
IPv4 および IPv6 アドレスを MMB 管理ポートに対して有効にします。
- ダウンリンクポート
 - デュプレックスモードの確認
MMB の管理ポートの NIC のデュプレックスモードを表示します。
 - デュプレックスモードの設定
MMB の管理ポートの NIC のデュプレックスモードを設定します。

↑IP アドレス設定

- IPv4
 - DHCP を有効にする
MMB の IP アドレスに対して DHCP 機能を有効または無効にします。
 - IP アドレス
MMB の IPv4 アドレスを設定します。
 - サブネットマスク
MMB のサブネットマスクを設定します。
 - ゲートウェイ
MMB のゲートウェイを設定します。
 - このゲートウェイをデフォルトで有効にする
管理 LAN ゲートウェイをデフォルトゲートウェイとして有効にします。
 管理 LAN ゲートウェイをデフォルトとして設定すると、サービス LAN ゲートウェイが非アクティブになります。
- IPv6
 - リンクローカル IP アドレス
管理ブレードのリンクローカル IPv6 アドレスを表示します。
 - グローバル静的 IP アドレス
MMB に固定 IPv6 アドレスを定義できるようにします。
 アドレスの形式と省略のルール:

IPv6 アドレスは、コロンで区切られた 16 ビットの 16 進数の 8 グループで表現されます (例 `2001:0db8:85a3:0000:0000:8a2e:0370:7334`)。IPv6 アドレスは、16 ビット数値の先頭のゼロを省略したり (例 `2001:db8:85a3:0:0:8a2e:370:7334`)、ゼロの連続を 2 つのコロンで置換することができます (例 `2001:db8:85a3::8a2e:370:7334`)。

- *グローバルステートレス IP アドレス*
ルータから取得した 1 つ以上の IPv6 アドレスを表示します。
- *DHCPv6 を有効にする*
MMB に対して DHCPv6 機能を有効または無効にします。
- *グローバルステートフル IP アドレス*
DHCPv6 サービスから取得したグローバル IPv6 アドレスを表示します。

↑DNS の設定

DNS 設定を DHCP から取得したり、2 つのドメイン名サーバを設定して名前を解決することができます。

- DNSv4
 - *DHCP から DNS 設定を取得*
DNSv4 構成に対して DHCP 機能を有効または無効にします。
 - *DNS サーバ 1*
プライマリ DNS サーバの IPv4 アドレスを指定します。
 - *DNS サーバ 2*
セカンダリ DNS サーバの IPv4 アドレスを入力します。
- DNSv6
 - *DHCP から DNS 設定を取得*
DNSv6 構成に対して DHCP 機能を有効または無効にします。
 - *DNS サーバ 1*
プライマリ DNS サーバの IPv6 アドレスを指定します。
 - *DNS サーバ 2*
セカンダリ DNS サーバの IPv6 アドレスを入力します。

↑IPMI ベースのアクセス

- *IPMI over LAN を有効にします。*
IPMI を有効または無効にします。
- *ポート*
IPMI 規格ポート番号を表示します。

↑Web ベースのアクセス

- *HTTP ポート*
HTTP のポート番号を設定します。
- *HTTPS を有効にする*
SSL に HTTP を有効または無効にします。

● HTTP ポートの変更または HTTPS の有効化/無効化は、「適用」ボタンをクリックしてから最大 15 秒後に反映されます。

- **HTTPS ポート**
HTTPS のポート番号を設定します。
- **強制 HTTPS の有効**
「HTTPS を有効にする」（上記）を有効にしても、HTTP 経由のアクセスは可能です。このオプションによって、HTTP が HTTPS にリダイレクトされ、HTTPS アクセスが強制されます。
- **クライアント認証を有効にする**
● クライアント認証では、MMB 証明書に基づくユーザー証明書を作成し、これを Web ブラウザにインポートする必要があります。ユーザー証明書は、「操作」→「証明書の操作」→「ユーザー証明書」で作成できます。

↑WS-Man

- **WS-Man を有効にする**
WS-Man プロトコルを有効または無効にします。
- **WS-Man ポート**
WS-Man 規格ポート番号を表示します。

↑テキストベースのアクセス

- **Telnet を有効にする**
Telnet サービスを有効/無効にします。
- **Telnet ポート**
Telnet のポート番号を設定します。
- **SSH を有効にする**
SSH 機能を有効/無効にします。
- **SSH ポート**
SSH のポート番号を指定します。

↑セッションタイムアウト

Web ベース/テキストベースアクセス

のセッションタイムアウト時間 (30~65535)

タイムアウト設定 (秒単位)。ユーザー入力システムによって受信されない場合、管理セッションおよびサービスセッションは指定した時間が経過すると、自動的に停止されます。

↑VLAN

MMB は最大 27 の VLAN グループをサポートします。共通 VLAN ID を持つネットワークデバイスのグループが VLAN グループです。すべての VLAN グループの設定が表示されます。処理するには、「VLAN グループ情報」テーブルの最初の列で VLAN グループを選択します。

VLAN グループ情報

- **グループ名**
VLAN グループ名を表示します（デフォルトまたは定義済み）。
- **有効なグループ**
該当する VLAN グループが有効か無効かを表示します。
- **グループ ID**
VLAN グループを特定します。
- **有効な DHCP**
DHCP が各 VLAN グループで有効か無効かを表示します。
- **VLAN IP アドレス**
VLAN IP アドレスを表示します。
- **VLAN ネットワークマスク**
VLAN ネットワークマスクを表示します。
- **適用**
「適用」ボタンをクリックして設定を有効にします。

VLAN グループの設定

- **グループを有効にする**
選択した VLAN グループをここで有効または無効にできます。
- **グループ名**
ここでデフォルト名を受け入れるか、または選択した VLAN グループの名前を入力できます（最大 14 文字）。
- **グループ ID (2-4094)**
許可された範囲に応じて数値を入力します。
●値「0」を設定すると、VLAN グループ ID が削除されます。VLAN グループが有効なときにこれを実行すると、グループが無効になり、グループ ID が削除されます。
- **DHCP を有効にする**
選択した VLAN グループに対して DHCP を有効または無効にします。
- **VLAN IP アドレス**
デフォルト設定を受け入れるか、または選択した VLAN グループに IP アドレスを設定します。
- **VLAN ネットワークマスク**
デフォルト設定を受け入れるか、または選択した VLAN グループにネットワークマスクを設定します。
- **適用**
「適用」ボタンをクリックして設定を有効にします。

↑ IP フィルタリング

マネジメントブレードでは、HTTP/HTTPS、SSH、SNMP、Telnet、および IPMI over LAN の有効な IP アドレスを最大 10 まで設定できます。デフォルト値は 255.255.255.255（すべての IP アドレスを許可）です。

許可するプロトコルの設定

グローバルに許可できるプロトコルタイプを選択します。

IP フィルタリングの設定表示

ここに、アクティブな IP フィルタ設定が一覧表示されます。

新しい IP フィルタリング

マネジメントブレードにアクセスできるサブネットマスクの形式で、許可できるプロトコル、IP アドレス、または IP アドレスの範囲を指定できます。

たとえば、MMB の IP アドレスが 10.10.10.80 の場合、次の IP フィルタを使用（適用）できます。

1. IP フィルタ 10.255.255.255 : IP が 10.xx.xx.xx でネットマスクが 255.0.0.0 のクライアントが MMB に接続できます。
2. IP フィルタ 10.10.255.255 : IP が 10.10.xx.xx でネットマスクが 255.0.0.0 または 255.255.0.0 のクライアントが MMB に接続できます。
3. IP フィルタ 10.10.10.255: IP が 10.10.10.xx、ネットマスクが 255.0.0.0 または 255.255.0.0 または 255.255.255.0 の任意のクライアントが MMB に接続できます。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

AuDi-MIP

このページには次のタブがあります。

AuDi-MIP の概念は、内部 DHCP サーバを MMB で使用して、1つのブレードシステムまたは相互接続したブレードシステム内のすべてのマネジメントコントローラに IP アドレスを割り当てるというものです。

↑ 基本

基本設定

- *AuDi-MIP* を有効にする
管理 IP アドレスの自動配布を有効または無効にします。
- *VLAN* グループ名
VLAN グループを設定します。

AuDi-MIP 設定

- *全て/詳細情報*
「全て」を選択すると、1つの IP アドレス範囲内のサーバブレードとコネクシオンブレードとマスターマネジメントブレードが含まれます。サーバブレードおよびコネクシオンブレードごとに IP アドレスを指定するには、「詳細情報」を選択します。
- *IP アドレスの範囲*
アドレス範囲の最初のアドレスと最後のアドレスを入力します。
- *サブネットマスク*
サブネットマスクを入力します。
- *ゲートウェイ*
ゲートウェイアドレスを入力します。

AuDi-MIP iRMC 設定

このセクションの入力フィールドは、上記の「詳細情報」が選択されている場合にのみ使用できます。IP 範囲は使用できるブレードの最大数以上にしてください。BX900=18、BX400=8 です。また、「マネジメントブレードを含める」を選択している場合は、これに 1 を加えます。

- *IP アドレスの範囲*
アドレス範囲の最初のアドレスと最後のアドレスを入力します。
- *マネジメントブレードを含む*
MMB アドレスを含めるか、除外します。

AuDi-MIP コネクシオンブレード管理コントローラ設定

このセクションの入力フィールドは、上記の「詳細情報」が選択されている場合にのみ使用できます。IP 範囲は使用できるブレードの最大数以上にして

ください。BX900=8、BX400=4です。また、「マネジメントブレードを含める」を選択している場合は、これに1を加えます。

- *IP アドレスの範囲*
アドレス範囲の最初のアドレスと最後のアドレスを入力します。
- *マネジメントブレードを含む*
MMBアドレスを含めるか、除外します。

DNS の設定

- *DNS ドメイン*
DNS ドメインの名前または ID を入力します。
- *DNS サーバ 1/2*
DNS サーバの IP アドレスを入力します。


NTP サーバ


- *NTP サーバ 1/2*
NTP サーバの IP アドレスを入力します。

コマンドボタン

適用

設定をアクティブ化します。

 「適用」 ボタンを押した後、確認のページが表示され、管理 IP 設定の詳細な影響が表示されます。

 DHCP は対象のすべてのブレードの管理コントローラの IP 設定に対して設定され、AuDi-MIP の「詳細」 ページでの IP 設定が置き換えられます。

↑ 詳細

このページでは、各デバイスに IP アドレスを個別に割り当てられます（サーバブレードに 18 の iRMC アドレス、コネクシオンブレードに 8 つのアドレス、マスターMMBに1つのアドレス）。

詳細設定

- *AuDi-MIP を有効にする*
管理 IP アドレスの自動配布を有効または無効にします。
- *VLAN グループ名*
VLAN グループを設定します。

iRMC

指定された設定のサーバブレードを選択して、使用する IP アドレスを入力します。

コネクシオンブレードの管理コントローラ

指定された設定のコネクシオンブレードを選択して、使用する IP アドレスを入力します。

マネジメントブレード

マスターマネジメントブレードを選択して、使用する IP アドレスを入力します。

コマンドボタン

表示の更新

このボタンは、システムユニットで現在アクティブな管理 IP アドレスを表示します。

デフォルト

このボタンにより、デフォルトの管理 IP アドレスがすべてのエントリフィールドに自動的に入力されます。

適用

設定をアクティブ化します。

① 「適用」 ボタンを押した後、確認のページが表示され、管理 IP 設定の詳細な影響が表示されます。

② DHCP は、装備されているすべてのブレードのマネジメントコントローラの IP 設定に対して設定されます。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」 ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

SNMP

このページには次のタブがあります。

↑ 基本

SNMP を有効にする

SNMP を有効または無効にして、SNMP パケットで送信するエージェントの IP アドレスを指定します。

SNMP コミュニティ

SNMP コミュニティの一覧を表示します。

コミュニティの追加

コミュニティ名を入力し、アクセス権限を選択します。次に、「追加」ボタンをクリックすると、新しいコミュニティを追加できます。この一覧には最大で 5 つのコミュニティを追加できます。

SNMP トラップの送信先

SNMP トラップの送信先の一覧を表示します。SNMP トラップの送信先は、マネジメントブレードが送信するトラップの受信者です。したがって、受信者は同じコミュニティに属している必要があります。この一覧に最大 5 つの送信先を追加できます。

新しいトラップの送信先

トラップ受信者の IP アドレスまたは受信者の DNS 名を入力する必要があります。

↑ SNMP V3 設定

V3 ユーザー設定

最大 10 のユーザーアカウントを設定できます。

- **ユーザーの選択**
ユーザー N を選択します。
- **ユーザー N**
選択したユーザー N の名前を入力します。
- **ユーザーの権限**
読み取り / 書き込み権限を選択します。
- **セキュリティレベル**
セキュリティレベル（「認証」、「認証を行わない」、「暗号化」）を設定します。
- **認証アルゴリズム**
認証に使用するアルゴリズムを指定します。「MD5」「SHA」のどちらかを選択してください。
- **認証パスワード**
認証パスワードを入力します。

- 暗号化パスワード
暗号化パスワードを入力します。

SNMP V3 のトラップ送信先

SNMP V3 トラップの送信先の一覧を表示します。SNMP V3 トラップの送信先は、マネジメントブレードが送信するトラップの受信者です。

新しいトラップの送信先

新しい送信先を追加するには、トラップの送信先アドレスを入力し、「ユーザー」と「イベントの種類」を選択します。最大で5つの送信先を追加できます。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

リモート通知

このページではイベントのフィルタリングを設定します。イベントが発生した場合、この設定が指定してある場合は通知の電子メールを送信できます。このページには次の2つのタブがあります。

↑ イベントの設定

イベントログフィルタリング

イベントソースと対応するエラー転送レベル（SEL レベルを送信する必要があります）を選択します。

サーバブレード電源投入／切断

サーバブレードの電源投入/切断をイベントログに記録する機能を有効／無効にします。

マネジメントブレードのイベントログ

マネジメントブレードの「ラップアラウンドイベントログ」機能を有効／無効にします。

↑ メール設定

メールを有効にする

- **メール機能を有効にする**
警告メール機能を有効／無効にします。
- **メールフォーマット**
メールフォーマット（標準または REMCS）を設定します（日本向けカスタマサポートのみ使用）。

グローバルメールのページング設定

- **SMTP リトライ (0-7)**
SMTP サーバが応答に失敗した場合のリトライ回数（0-7）を設定します。
- **SMTP リトライまでの待ち時間 (0-255)**
SMTP サーバが応答に失敗した場合のリトライ間隔を秒単位で設定します。

プライマリ SMTP サーバ設定 /

セカンダリ SNMP サーバ設定

- **SMTP サーバIPv4 アドレス**
SMTP サーバの IPv4 アドレスを設定します。
- **SMTP サーバIPv6 アドレス**
SMTP サーバのドメイン名または IPv6 アドレスを設定します。

i あらかじめ IPv6 を「設定」→「ネットワークインタフェース」→「管理 LAN」で有効にしておく必要があります。

- **SMTP ポート (1-65535)**
SMTP サーバのポート番号を設定します。
- **認証タイプ**
認証の種類（「Auth-Login」、「Auth-Plain」、「Auth-Cram-md5」）を選択します。
- **認証ユーザー名**
認証ユーザー名を入力します。
- **認証パスワード**
認証パスワードを入力します。

送信するメールフォーマットの設定

送信元の電子メールアドレス、管理者名、および電話番号を設定できます。最大 5 個の電子メールアドレスがサポートされます。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の 4 つがあります。ここでは、これらの 4 つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

日付と時刻

このページには次のブロックがあります。

コントローラ時刻

マネジメントブレードの日付と時刻を設定します（形式は MM/DD/YYYY と HH:MM:SS）。

タイムゾーン

このシステムのタイムゾーンと夏時間を設定します。

ネットワークタイムプロトコル(NTP)

- *NTP を有効にする*
NTP 機能を有効/無効にします。
- **IPv4:**
 - *NTP サーバ1*
NTP サーバの IPv4 アドレスを入力します。
 - *NTP サーバ2*
NTP サーバの代替 IPv4 アドレスを入力します。

i フェイルオーバーのため、NTP サーバは 2 つ指定してください。

- **IPv6:**
 - *NTP サーバ1*
NTP サーバの IPv6（または DNS）アドレスを入力します。
 - *NTP サーバ2*
NTP サーバの代替 IPv6（または DNS）アドレスを入力します。

i フェイルオーバーのため、NTP サーバは 2 つ指定してください。

i あらかじめ IPv6 を「設定」→「ネットワークインタフェース」→「管理 LAN」で有効にしておく必要があります。

- *時刻の同期モード*
時刻の同期モードは 2 つあります。
 - *遅れているときに同期*
マネジメントブレードの時刻が NTP サーバの時刻よりも遅れているときのみ、マネジメントブレードの時刻を NTP サーバの時刻に合わせます。
 - *常に同期*
マネジメントブレードの時刻を常に NTP サーバの時刻に合わせます。
- *最終同期日付/時刻*
マネジメントブレードが NTP サーバと最後に合わせた時刻を表示します。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

更新

このページでは次の情報を示します。

- 標準ユーザインターフェース
 - 自動更新サイクル (5-59)
自動更新の更新間隔を秒単位で設定します。
- 高度なユーザインターフェース
 - 自動更新を有効にする
自動更新機能を有効／無効にします。
 - 自動更新サイクル (1-15)
自動更新の更新間隔を分単位で設定します。

ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

言語

Web インターフェースと LCD パネルに表示される言語を設定できます。

「表示言語の同期」が有効になっている場合、言語の選択は同時に両方のインターフェースに適用されます。

ロールの配布に基づく権限

ユーザーに割り当てられるロールは、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つのロールに以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

基本設定ウィザード

基本設定ウィザードで、システムを起動できます。ウィザードは、ユーザーが初めて Web UI にサインインすると表示され、最初に正常に完了するまで表示されます。

- **言語の選択**
Web インターフェースと LCD パネルに表示される言語を設定できます。
- **日付と時刻の設定**
マネジメントブレードの日付と時刻を設定します（形式は MM/DD/YYYY と HH:MM:SS）。
- **設定のインポート**
システムユニットの設定を USB メモリまたはローカルファイルからシステムユニットにインポートします。
- **識別情報設定**
「識別情報」メニューには、システム名、ラック名、システム管理者、システムの設置場所を入力するボックスがあります。
i システム名は 14 文字までにしてください。
- **ネットワーク設定**
 - **IPv4**
DHCP を有効にして、IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、および 2 つの DNS サーバの IP アドレスを設定します。
i "個別コンポーネントの場合": 個々の設定は、選択したコンポーネントの基本設定ウィザード以外で指定する必要があります。
(BX900 のみ)
 - **IPv6**
IPv6 と DHCPv6 を有効にして (IP と DNS 設定用)、2 つの DNS アドレスを定義するスピinboxを表示します。
 - **AuDi-MIP**
AuDi-MIP を有効にできます。IP アドレスは共通 IP アドレス範囲を使用して、サーバとコネクシオンブレードに配布されます。
i コンポーネントタイプの開始アドレスを少なくとも 1 つ定義する必要があります。
- **コネクシオンブレード設定 (BX400 のみ)**
システムユニットの最初のコネクシオンブレードに名前を設定し、IP プロトコルバージョンと DHCP を有効にできます。または IPv4 設定を指定できます。
- **フロントサイド I/O 設定 (BX400 のみ)**
後でフロントサイド I/O モジュール (USB/DVD) に接続できるサーバブレードを事前設定できます。フロントサイド I/O モジュールを後で使用するには、ここで許可されたサーバブレードの 1 つを「情報/操作」→「操作」→「フロントサイド I/O 管理」→「割り当て」でモジュールに割り当てる必要があります。

- **電源管理設定**
電源ユニット管理の有効化、ダイナミックモードおよび冗長レベルの調整、消費電力の表示単位（WattまたはBTU/h）の選択ができます。
- **暗証番号設定**
暗証番号を設定します。暗証番号により、LCDパネルが不正アクセスから保護されます。
- **ハードウェアチェック**
Ekeying 不一致エラーの数を表示します。各エラーの詳細を確認できます。
- **設定の保存**
現在のシステムユニットの設定をローカルファイルまたはUSBメモリのファイルにコピーします。

↑ **ロールの配布に基づく権限**

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

VIOM Manager

VIOM Manager は、I/O 動作に関してサーバブレードを仮想化するために使用されます。このために MMB を搭載し、VIOM データテーブルを保存したり、インベントリデータにクエリを実行したりします。VIOM Manager は MMB をリモートツールとして利用し、サーバブレードのブートプロセスの開始に使用します。

既知の場合、VIOM Manager のソフトウェア識別子 (GUID) と VIOM Manager が実行されている管理ステーションの IP アドレスが表示されます。

i GUI のこのページは、VIOM Manager がサーバの制御を最低 1 回引き継いだ場合のみ表示されます。

ローカル VIOM データのリセットをアクティブ化すると、以下の対策が実装されます。

- サーバブレードのシャットダウンが実行されます。
- SM CLP インタフェースの `ViomManaged` プロパティが削除されます。
- すべてのサーバブレードは「init」オプションで起動されます。これは、データテーブルが空の場合、BIOS が標準 I/O アドレスを設定し、仮想化をリセットするということです。
- 「VIOM で管理」エントリが Web UI から削除されました。




「リセット」ボタンを使用してリセットを開始した場合、リセットの結果に関する情報が Web UI に表示されます。この情報を「再起動確認」ボタンを使用して確認する必要があります。この確認を行うと、「リセット状況」フィールドに進行状況が通知されます。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の 4 つがあります。ここでは、これらの 4 つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

アイコン概要 (BX900/400)

	状態	OK: すべてのコンポーネントは正常に動作しています。
	状態	デバイスがインストールされていません。
	イベントの重要度	情報。
	ステータス/イベントの重要度	「警告」または「PDA エラー」。重要度：軽度。
	イベントの重要度	重度。
	ステータス/イベントの重要度	危険レベル。
	CSS LED	システムで「警告」または「PDA エラー」というタイプのエラーが発生しています。
	CSS LED	オレンジ色のアイコンが点滅している場合、「警告」または「PDA エラー」というタイプのエラーは発生していませんが、「重大なエラー」が発生しています。
	エラーLED	システムで「警告」または「PDA エラー」というタイプのエラーが発生しています。
	エラーLED	赤色のアイコンが点滅している場合、「警告」または「PDA エラー」というタイプのエラーは発生していませんが、「重大なエラー」というタイプのエラーが発生しています。
	設置場所 LED	MMB の ID LED が点灯しています。
	電力 LED	システムユニットの電源状態：オン。
	LED：消灯	CSS、エラー、または位置の指定がありません。システムユニットはオフになります。
	CSS：警告	1つ以上のコンポーネントが警告状態にあり、交換が必要です。
	CSS：危険	1つ以上のコンポーネントが危険な状態にあり、交換が必要です。
	ツールボックスの記号	カスタマセルフサービスイベントログを示します。
	ツールの記号	カスタマセルフサービスイベントログに1つ以上の解決策があることを示します。
	MMB の動作モード	マスターMMB。

- MMB の動作モード スレーブ MMB。

-  ドアの状態 フロアスタンドシステムでドアが開いています。
-  ドアの状態 フロアスタンドシステムでドアが閉じています。

-  MMB USB ステータス MMB USB ポートに接続された USB デバイス（高度なユーザーインターフェース）。
-  MMB USB ステータス MMB USB ポートに接続された USB デバイス（標準ユーザーインターフェース）。
-  ストレージの関連付け サーバブレードとストレージブレード間の関連付け。

-  サーバブレードの表示 USB/DVD が割り当てられています。
-  サーバブレードの表示 アイコンが点滅している場合、USB/DVD が割り当てられ、使用されていることを示しています。
-  サーバブレードの表示 USB/DVD が割り当てられていません。
-  サーバブレードの表示 コンソールがアクティブです。
-  サーバブレードの表示 アクティブなコンソールがありません。
-  サーバブレードの表示 サーバブレードをオン/オフするボタン。

-  電源バー 電源オフ。
-  電源バー 電源オン。
-  電源バー PSU がコードレス/電源オフです。
-  消費電力モード アクティブ化されました。アクティブ化を処理中です。
-  消費電力モード アクティブではありません。

-  ヘルプの参照 詳細は、ヘルプテキストの中の  の印が付いている説明を参照してください。

訳語/用語集

このページでは、PRIMERGY BX システムのコンテキストで使用される略語の展開と説明を示します。

A

AAE

Action After Error

AC

Alternating Current

ACK

ACKnowledgement

ACPI

Advanced Configuration Power Interface

AD

Active Directory (Microsoft)

AES

Advanced Encryption Standard

ARP

Address Resolution Protocol

ASCII

American Standard Code for Information Interchange

ASR

Automatic System Recovery

ATA

Advanced Technology Attachment

AuDi-MIP

Automatic Distribution of Management IP Addresses

B ↑

BBS

BIOS Boot Specification

BBU

Battery Backup Unit

BIOS

Basic Input Output System

Bps

Bits per second

BSSO

Blade Server Single Sign-On

BTU/h

British Thermal Unit per hour

C ↑

CA

Certification Authority

CB
 Connection Blade
 CD-ROM
 Compact Disk-Read Only Memory
 CLI
 Command Line Interface
 CLP
 Command Line Protocol
 CMOS
 Complementary Metal Oxide Semiconductor
 CN, cn
 Common Name (*比較項目: DN*)
 CNA
 Converged Network Adapter (Emulex)
 CPU
 Central Processor Unit
 CRAM-MD5
 Challenge-Response Authentication Mechanism, Message Digest 5
 CTS
 Clear to Send
 CSR
 Certificate Signing Request
 CSS
 Customer Self Service

D ↑

dB
 Decibel
 DC
 Direct Current
 DC, dc
 Domain Component (*比較項目: DN*)
 DDR
 Double Data Rate
 DHCP
 Dynamic Host Configuration Protocol
 DIMM
 Dual-in-Line Memory Module
 DIP
 Dual In-Line Package
 DMTF
 Distributed Management Task Force
 DN
 Distinguished Name (LDAP)
 DN は、ディレクトリサービスのディレクトリスキーマのエントリを一意に識別する名前です。DN は、CN (共通名)、OU (部署名)、DC (ドメインコンポーネント) など、一連のRDN (関係識別名) で構成されています。
 DNS
 Domain Name Server
 DOS

Disk Operating System
DST Daylight Saving Time
DVD Digital Versatile Disk

E ↑

EHM End Host Mode
EDR Enhanced Data Rate (25.78125 Gbit/s)
EPOW Early Power Off Warning
EPROM Erasable Programmable Read-Only Memory
EEPROM Electrically Erasable Programmable Read-Only Memory
EUI Extended Unique Identifier

F ↑

FC Fibre Channel
FCoE Fibre Channel over Ethernet
FDR Fourteen Data Rate (14.0625 Gbit/s)
FQDN Fully Qualified Domain Name
FRU Field Replaceable Unit
FSB Front Side Bus
FSIOM Front-Side I/O Module (BX400)
FTS Fujitsu Technology Solutions

G ↑

GbE Gigabit Ethernet
Gbps, Gb/s Gigabit per second
GMT Greenwich Mean Time
GUI Graphical User Interface
GUID

Globally Unique Identifier

H ↑

HBA Host Bus Adapter
HDD Hard Disk Drive
HDR High Data Rate
HE High Efficiency
HSS High-Speed Slot
HTTP Hypertext Transfer Protocol
HTTPS Hypertext Transfer Protocol Secure

I ↑

I2C Inter-Integrated Circuit ("i-squared cee")
IANA Internet Assigned Numbers Authority
IB InfiniBand
IBP Intelligent Blade Panel
ICE Import Convert Export
ICMP Internet Control Message Protocol
ICX Internet Content Accelerator
ID Identifier
IDE Integrated Device Electronics
IF Interface
I/O Input / Output
IP Internet Protocol
IPMB Intelligent Platform Management Bus
IPMI Intelligent Platform Management Interface
IQN

iSCSI Qualified Name	<i>CNA</i> オンボードアダプタまたは <i>CNA</i> メザニンカードのポートの <i>iSCSI</i> 物理機能のイニシエータ文字列。
iRMC	Integrated Remote Management Controller
iSCSI	Internet Small Computer System Interface <i>iSCSI</i> は、データストレージ装置を接続するためのインターネットプロトコル (<i>IP</i>) ベースのストレージネットワーク規格です。
ISMIC	I2C Switch Management Interface Controller
IT	Information Technology
K ↑	
Kbps, Kb/s	Kilobit per second
KME	Keyboard Mouse Emulator
KVM	Keyboard, Video, Mouse
L ↑	
L2	Layer 2 (Data Link Layer)
LAN	Local Area Network
LCD	Liquid Crystal Display
LDAP	Lightweight Directory Access Protocol <i>LDAP</i> は分散ディレクトリ情報サービスへのアクセスおよび維持のためのアプリケーションプロトコルです。ディレクトリサービスはレコードの編成されたセットを提供し、多くの場合は階層構造になっています。関連項目: <i>DN</i> 。
LDIF	Lightweight Directory Interchange Format
LED	Light Emitting Diode
LOM	LAN On Motherboard
LSB	Local Service Display for Blades
LVD	Low-Voltage Differential
M ↑	
MAC	

	Media Access Control
MB	Megabyte
MD5	Message Digest 5 (暗号化アルゴリズム)
Mbps, Mb/s	Megabit per second
MHz	Megahertz
MIME	Multipurpose Internet Mail Extensions
MMB	Management Blade
MUX	Multiplexer
N ↑	
N/A	Not Applicable または Not Available
NDR	Next Data Rate
NDS	Novell Directory Services
NIC	Network Interface Card
NMI	Non-Maskable Interrupt
NTP	Network Time Protocol
NVRAM	Non-Volatile Random Access Memory
O ↑	
OCP	OverCurrent Protection
OEM	Original Equipment Manufacturer
OOB	Out Of Band
OPROM	Option ROM ブート可能な周辺デバイスを制御するアダプタカードのファームウェア。
OS	Operating System
OU, ou	Organizational Unit (比較項目: DN)
OVP	OverVoltage Protection

P ↑

PC

Personal Computer

PCI

Peripheral Component Interconnect

PDA

Prefailure Detection and Analysis

PF

Physical Function

CNA オンボードアダプタ (PCI カード) の物理カードへのインターフェース。

PF ID

Port Function Identifier

CNA オンボードアダプタ/CNA メザニンカードの、ポートの物理機能ID。

PIN

Personal Identity Number

Port GUID

IB メザニンカードのポート GUID。

Port ID

オンボードアダプタ/メザニンカードのポート番号。

POST

Power-on Self Test

PROM

Programmable Read Only Memory

PSU

Power Supply Unit

PWOK

Power OK

PXE

Preboot eXecution Environment

PY

PRIMERGY

Q ↑

QDR

Quad Data Rate

QPI

QuickPath Interconnect

R ↑

RAID

Redundant Array of Independent/Inexpensive Disks

RAM

Random Access Memory

RC4

Rivest Cipher 4 (暗号化アルゴリズム)

RDN

Relative Distinguished Name (比較項目: DN)

REMCS
 REMote Customer Support

RFC
 Request for Comments

RFN
 Rear FaN

RH5
 Red Hat Enterprise Linux 5

RHEL
 Red Hat Enterprise Linux

r/o
 read only

ROM
 Read Only Memory

RPM
 Rotations / Revolutions Per Minute

RSA
 Rivest, Shamir, Adleman (暗号化アルゴリズム)

RTC
 Real Time Clock

RTS
 Request to Send

RX
 Receiver Cross

RX/TX
 Receive/Transmit

S ↑

SAP
 Service Access Point

SAS
 Serial Attached SCSI

SCDR
 SCI Data Register

SCI
 Serial Communications Interface

SCCR1/2
 Serial Communications Control Register 1/2

SCSI
 Small Computer System Interface
 コンピュータと周辺デバイス間でデータを物理的に接続および転送するための規格。

SCSR
 Serial Communications Status Register

SDR
 Single Data Rate

SDR
 Sensor Data Records

SDRAM
 Synchronous Dynamic Random Access Memory

SED
Self-Encrypting Drive

SEL
System Event Log

SHA
Secure Hash Algorithm (暗号化アルゴリズム)

SM CLP
Server Management Command Line Protocol

SMASH
Systems Management Architecture for Server Hardware

SMTP
Simple Mail Transfer Protocol

SNMP
Simple Network Management Protocol

SSD
Solid State Disk

SSH
Secure Shell

SSL
Secure Socket Layer

SV
ServerView

SVIM
ServerView Installation Manager

SVS
ServerView Suite

T ↑

TCP/IP
Transmission Control Protocol/Internet Protocol

TDR
Transmit Data Register

TDRE
Transmit Data Register Empty

TFTP
Trivial File Transfer Protocol

TLS
Transport Layer Security

TPM
Trusted Platform Module

TX
Transmitter Cross

U ↑

UART
Universal Asynchronous Receiver Transmitter

UI
User Interface

UID

Unit Identification Light
UPS Uninterruptible Power Supply
入力電源が停止した場合に即座に保護機能を実行するデバイス。
URL Uniform Resource Locator
USB Universal Serial Bus
USM User-based Security Model
USV Unterbrechungsfreie Stromversorgung (= Uninterruptible Power Supply (UPS))
UUID Universally Unique Identifier
UVP UnderVoltage Protection

V ↑

VA Volt-Ampere
VAC Volts Alternating Current
VDX Virtual Network BIOS Driver
VIOM Virtual I/O Manager
VLAN Virtual Local Area Network
VMM Virtual Machine Monitor
VRAM Video Random Access Memory

W ↑

WS-Man Web Services Management
WWN World Wide Name
特定のファイバチャネル、ATA または SAS デバイスを識別する、一意の ID。
WWNN World Wide Node Name
WWNN は、ファイバチャネルファブリック内のノード (エンドポイント、デバイス) に割り当てられたワールドワイド名です。
WWPN World Wide Port Name
WWPN は、ファイバチャネルファブリック内のポートに割り当てられたワールドワイド名です。

X ↑

XML

Extensible Markup Language

XON/XOFF

Transmitter On/Transmitter Off

トランスミッタをオンまたはオフに切り換える信号。